大阪市文化財協会46年のあゆみ

2025年3月

一般財団法人　大阪市文化財協会

ごあいさつ

私たちの誰一人として望んだわけではないが、大阪市文化財協会は、この３月をもって解散することとなった。組織としての変遷はあったが、1979年以来46年に及ぶ活動期間であり、この間に大阪市内の文化財調査の大半を担ってきたものと自負している。

解散にあたり、最終年度にはいくつかの刊行物を作成した。関係者に呼びかけて、論考を寄せていただき、『大阪市文化財論集Ⅱ』を刊行し、また、これまでの難波宮の発掘成果を通覧できる『難波宮発掘70年史』も完成した。そうした出版物とは別に、協会自体の歩みが分かる小冊子を作ろう、ということで本書が企画された。これまでに、年度の区切りに、「20年のあゆみ」と「30年のあゆみ」を作ってきたので、その後の2010～24年度分に重きを置きながら、必要に応じて全期間のデータも示すことにした。

それにしても、「20世紀から21世紀にかけて、大阪の文化財調査を精力的に行なった大阪市文化財協会という組織が存在した」ということが歴史の一つに数えられてしまうのが、つくづく残念でならない。

最後に、執筆・編集にあたられた方々に感謝申し上げる。

2025（令和７）年３月

一般財団法人　大阪市文化財協会
理事長
寺崎　保広

（財）大阪市文化財協会設立の趣旨

大阪は、古代に唐の長安を模したといわれている難波宮がつくられ、また中世には石山本願寺を中心に栄え、秀吉の大坂城築造により城下町として政治外交の中心地となり、徳川時代になると、商人の町として発展し、他に類のない繁栄を見せることとなりました。このような、歴史的な背景からも、大阪には数多くの文化遺産が残されていることは容易にうなずけるところであります。

しかし、近時、経済の高度成長に起因した都市開発が急激に進められており、埋蔵文化財の包蔵地を何らかの形で破壊する結果を招いていることは、誠に憂慮に耐えないところであります。もとよりこうした事情は全国的に見受けられることであり、各地において遺跡保護のための緊急発掘調査の必要性が生じてきております。大阪市におきましても、これに対応して国民的財産である文化遺産を後世に伝えていくため、市民と一体となって文化財の保護にあたることが何よりも肝要であると痛感するものであります。

大阪市では、昭和35年に難波宮址顕彰会を組織し、難波宮跡の発掘および史跡公園の整備を行ってきました。昭和50年には高速道路建設のために遺構調査が必要となり、高速大阪東大阪線難波宮跡調査会を組織し、昭和49年６月には地下鉄谷町線延長工事に伴なう市内南部方面の遺跡調査のため長原遺跡調査会を組織して、それぞれ市内埋蔵文化財の発掘調査、整備を担当し、着々とその成果をあげております。

しかし、何分にも埋蔵文化財の分布状況が広範多様にわたっており、実態調査や発掘調査により出土した遺物の整理も充分とはいえない状態であります。大阪市としても、大阪の歴史を解明する学術研究を目途に埋蔵文化財の保護とその調査体制を強化充実しなければならない事態に直面しています。

そこで、大阪市において、埋蔵文化財の発掘調査を主体としてきた従来の上記３団体を統合し、発掘調査、遺物の整理等の迅速化や事務の簡素化をはかるとともに、新たな広範な文化財保護思想の普及と啓発をあわせ行なうことが緊要であり、組織財政基盤を確立するため、財団法人大阪市文化財協会を設立します。　（昭和54年６月）

例言

・本資料は当協会が1999年10月に発行した『20年のあゆみ』および2010年３月に発行した『30年のあゆみ』に続いて刊行するものである。調査事業・博物館受託および指定管理事業・国際交流事業・研究活動については設立以来、46年間のデータを記載している。教育普及事業の一部については活動が多岐にわたりかつ膨大であるため、2010～2023年度までを中心としておもなものをまとめた。2009年度以前の事業・活動の詳細については前掲の２冊を参照されたい。

・資料に掲載した各種記録は1979～2023年度に発行した事業報告書およびこれの添付資料をもとにしている。

・本資料の執筆はⅢ－２を調査課保存科学室長藤田浩明、Ⅳを事業企画課主幹清水和明、Ⅵ－１を事務局次長南秀雄、Ⅵ－２を東淀川事務所長岡村勝行が担当した。これ以外を調査課学芸員小田木富慈美が執筆するとともに全体の編集を担当した。

目　次

Ⅰ．これまでのあゆみ…… 1
Ⅱ．組織 …… 2
　1. 組織の変遷…… 2
　2. 役員及び評議員 …… 3
　3. 現職員及び旧職員 …… 3
Ⅲ．埋蔵文化財の調査事業…… 5
　1. 調査事業 …… 5
　2. 保存科学事業 ……11
　3. 発掘調査報告書の刊行 ……13
　4. 資料の保管 ……16
　5. 現地説明会などの開催 ……16
Ⅳ．博物館受託および指定管理事業……17
Ⅴ．教育普及事業……18
　1. 文化財情報『蓂火』の刊行 ……18
　2. 普及図書の編集 ……19
　3. ホームページ等の運用 ……19
　4. 資料の貸出・提供 ……19
　5. 収蔵図書と利用者数 ……19
　6. 展示 ……20
　7. 講演会等の開催および各機関との連携 ……21
　8. 全国埋蔵文化財法人連絡協議会との連携 ……21
　9. 地域団体との連携 ……21
　10. 学校との連携 ……21
　11. 各種のイベントとの連携等 ……22
Ⅵ．国際交流事業……25
　1. 韓国・財団法人嶺南文化遺産研究院との国際交流事業 25
　2. その他の国際交流事業 ……26
Ⅶ．研究活動……28
　1. 論集・研究紀要の発行 ……28
　2. 大学・その他機関等からの講師・委員等の応嘱 ……28
　3. 競争的研究資金の獲得 ……29
　4. 共同研究員制度 ……29

Ⅰ．これまでのあゆみ

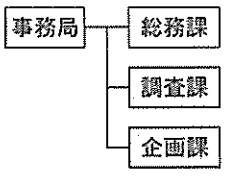
1979年５月７日　財団法人大阪市文化財協会設立発起人会を開催
1979年５月28日　大阪府教育委員会の認可を受ける
1979年６月１日　財団法人大阪市文化財協会設立登記
1979年６月28日　第１回理事会開催
1979年７月１日　事業開始、事務局（中央区法円坂１－６－48）・長原分室（平野区長吉長原東３－１－62）を設置
1980年４月　森小路遺跡の発掘調査開始
1980年10月　森小路分室を設置（～2000年）
1980年12月　難波宮東方官衙の発掘調査
1981年７月　土地区画整理事業に伴う長原・瓜破遺跡の発掘調査開始
1981年11月　市営住宅建替に伴う山之内遺跡の発掘調査開始
1982年11月　「大阪の歴史を掘る講演会」開催、以後年１回
1983年４月　第１回「中国歴史遺産の旅（旧名称：中国史跡めぐりの旅）」開催、以後年１回開催
1983年10月　加美遺跡で方形周溝墓群の調査を開始（～85年３月）
1984年２月　平野区画整理記念会館「平野住民大学講座」年７回開催（～継続中）
1984年７月21日・7月22日　当協会設立５周年記念シンポジウム「難波京と古代の大阪」開催
1984年８月10日～9月16日　当協会設立５周年記念展示「発掘された大阪」開催
1985年11月　第１回「韓国歴史遺産の旅」、以後２回開催
1985年12月　本部事務局を移転（中央区法円坂１－１－35大阪市立中央青年センター６Ｆ）、旧本部を難波宮分室に
1986年３月　大阪市文化財情報『華火』創刊、年６回刊行
1989年７月　復原古代船「なみはや」、釜山へ航海実験
1989年７月８日・７月９日　協会設立10周年記念国際シンポジウム「古代船の時代－５世紀の大阪と東アジア－」開催
1989年８月25日～8月30日　協会設立10周年記念展示会「よみがえる古代船と５世紀の大阪」開催
1990年４月　長原分室を旧大和川小学校（平野区長吉長原東３－２－５）へ移転、保存科学室が稼働
1990年５月　住友長堀銅吹所跡の発掘調査開始
1990年６月　「長原文化財講演会」始まる、年３回開催
1990年６月　大阪市埋蔵文化財収蔵展示室を公開
1993年６月　難波宮跡資料展示室を公開
1993年８月　大阪市立博物館内常設展示「大阪市の考古学」を開設、年３回展示替え
1995年10月　長吉東部地区土地区画整理事業に伴う発掘調査開始
1995年11月　難波宮フェスティバルに参加（～2001年）
1996年２月　長吉分室（平野区長吉出戸７－12）を設置
1996年４月　難波宮・長原・長吉分室をそれぞれ難波宮・長原・六反調査事務所（～2003年５月）に改称
1996年10月　細工谷遺跡の発掘調査（～97年９月）
1997年４月　報告書作成室（中央区南船場１－５－22　T.U南船場ビル４Ｆ）を設置（～2004年３月）
1998年４月　『大阪市文化財協会 研究紀要』創刊、以後年１冊刊行
1999年８月　難波宮調査事務所を隣地（中央区法円坂１－６－41）に移転
1999年10月24日　協会設立20周年記念国際講演会『東アジア考古学最新事情 秦始皇帝から韓、倭まで』
1999年12月　韓国（財）嶺南文化財研究院と「交流に関する協定（姉妹関係）」を締結
2001年３月　長吉瓜破地区土地区画整理事業に伴う発掘調査を完了、報告書は2003年３月に完了
2001年５月　大阪歴史博物館管理運営業務を受託
2001年10月　文部科学省科学研究費補助金交付申請の指定機関として認定
2001年11月　大阪歴史博物館開館
2002年５月　奨学金返還特別免除職にかかる研究機関として文部科学大臣により指定
2002年７月　大阪歴史博物館特集展示「新発見！なにわの考古学」（市内遺跡調査の速報展）開催、以後年１回開催
2002年８月　金曜歴史講座を大阪歴史博物館にて開講、以後年10数本を開催
2002年９月　『大阪歴史博物館 研究紀要』創刊、『大阪市文化財協会 研究紀要』を同誌へ統合し、以後年１冊刊行
2003年４月　財団法人大阪府文化財センターへ学芸員を派遣（～2008年３月）
2003年10月　住友銅吹所跡の発掘調査成果を中心に大阪歴史博物館特別展「よみがえる銅－南蛮吹きと住友銅吹所－」展を開催
2004年10月　大阪歴史博物館特別展「難波宮跡発掘50周年記念 古代都市誕生－飛鳥時代の仏教と国づくり－」展を開催
2006年１月12日～１月15日　世界考古学会議中間会議大阪大会の開催にあたり実行委員会に参画
2006年４月　大阪歴史博物館・大阪市立自然史博物館の指定管理者として管理運営業務を代行（～2019）
2006年４月　なにわの海の時空館（大阪市立海洋博物館）へ学芸員を派遣（～2009年11月）
2006年10月　難波宮跡で発見された万葉仮名文木簡を大阪歴史博物館で公開
2009年４月　（財）かながわ考古学財団へ学芸員を派遣（～2010年３月）
2009年12月19日　（財）嶺南文化財研究院 交流10周年記念 シンポジウム「古代嶺南と大阪の出会い－道路・土器・鉄器－」を韓国大邱で開催
2010年２月21日　当協会設立30周年記念講演会・展示「都市大阪の成り立ちを語る－遺跡・発掘・文化財－」を開催
2010年４月１日　寄付行為を変更し、名称を「大阪市博物館協会」へ改称する
大阪歴史博物館、大阪市立自然史博物館、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪城天守閣を管理代行（指定管理者制度）
「大阪文化財研究所」設置
2010年　東淀川区東淀川調査事務所と生野区保存科学室を開設
2012年４月１日　名称を「公益財団法人　大阪市博物館協会」へ変更
2013年４月１日　東日本大震災復興支援のため（公財）福島県文化

振興財団へ職員１名派遣（１年間）
2014年４月１日　東日本大震災復興支援のため（公財）福島県文化振興財団へ職員１名派遣（１年間）
2014年10月14日　（公財）八尾市文化財調査研究会へ職員派遣
2015年１月９日　（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団へ職員派遣（２名）
2015年４月１日　大阪歴史博物館、大阪市立自然史博物館、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館を管理代行（指定管理者制度）
2015年４月１日　東日本大震災復興支援のため（公財）福島県文化振興財団へ職員１名派遣（１年間）
2015年４月１日　（公財）かながわ考古学財団へ職員１名派遣（３年間）
2015年　本部を難波宮事務所へ移転、発掘調査事務所を東淀川事務所へ統合
2015年７月１日　（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団へ職員１名派遣
2015年８月１日　（公財）京都市埋蔵文化財研究所へ職員１名派遣
2015年12月１日　（公財）八尾市文化財調査研究会へ職員１名派遣
2016年１月１日　（公財）枚方市文化財研究調査会へ職員１名派遣
2016年４月１日　東日本大震災復興支援のため（公財）岩手県文化振興事業団へ職員１名派遣
2016年10月１日　（公財）京都市埋蔵文化財研究所へ職員１名派遣
2017年４月１日　東日本大震災復興支援のため（公財）岩手県文化振興事業団へ職員１名派遣
2019年４月１日　博物館・美術館の指定管理者協定期間の終了、管理運営業務は地方独立行政法人大阪市博物館機構（2019年４月１日設立）へ移行
名称を「一般財団法人 大阪市文化財協会」へ変更
2025年３月31日「一般財団法人 大阪市文化財協会」解散

Ⅱ．組織

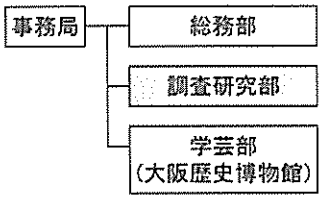
1. 組織の変遷

1979年7月～
財団法人 大阪市文化財協会

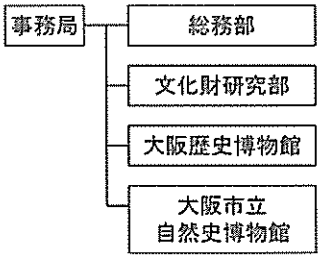


□ は文化財調査担当の学芸部門

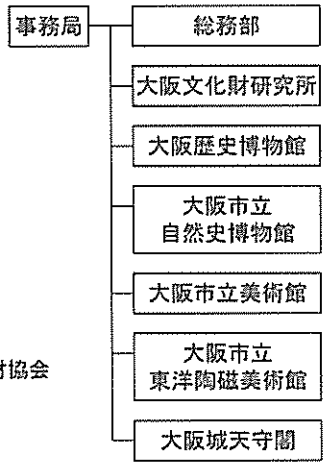
2001年5月～
財団法人 大阪市文化財協会



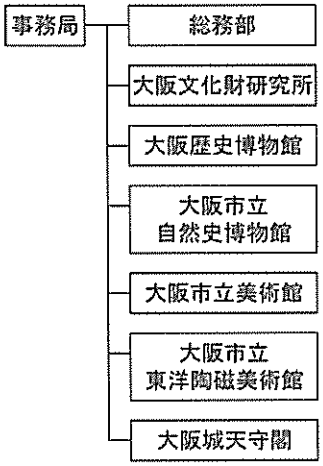
2006年4月～
財団法人 大阪市文化財協会



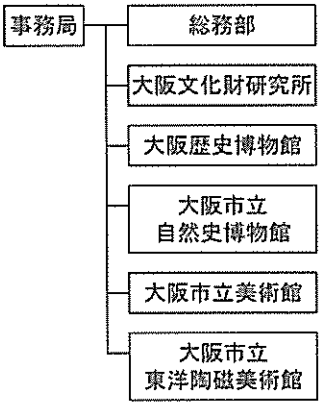
2010年4月～
財団法人 大阪市博物館協会



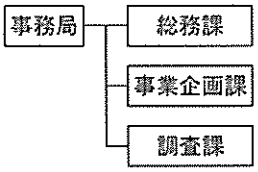
2012年4月～
公益財団法人 大阪市博物館協会



2015年4月～
公益財団法人 大阪市博物館協会



2019年4月～
一般財団法人 大阪市文化財協会



※博物館・美術館管理運営事業は
地方独立行政法人大阪市博物館機構へ移行

2. 役員及び評議員

現役員・評議員　2025年 3 月現在

役　員

理事長	寺崎保広	（一般財団法人大阪市文化財協会理事長）
専務理事	大上一光	（一般財団法人大阪市文化財協会専務理事兼事務局長）
理　事	南　秀雄	（一般財団法人大阪市文化財協会理事兼事務局次長）
理　事	網　伸也	（近畿大学文芸学部文化・歴史学科教授）
理　事	大澤研一	（地方独立行政法人大阪市博物館機構　大阪歴史博物館長）
理　事	神野　恵	（独立行政法人国立文化財機構　奈良文化財研究所　企画調整部　室長）
理　事	福永伸哉	（大阪大学大学院人文学研究科教授）
監　事	河田誠夫	（河田誠夫税理士事務所税理士）

評　議　員

岩田　仁	（大阪市経済戦略局文化部長）
岸本直文	（大阪公立大学大学院文学研究科教授）
坂井秀弥	（公益財団法人大阪府文化財センター理事長）
西尾方宏	（西尾公認会計士事務所長）
松田淳至	（大阪市教育委員会事務局総務部長）
宮路淳子	（奈良女子大学研究院人文科学系人文社会学領域教授）

歴　代　理　事　長

佐治敬三
脇田　修
山本重雄
楞川義郎
栄原永遠男

3. 現職員及び旧職員（旧職員は退職時の姓名／大阪歴史博物館・大阪市立自然史博物館等勤務の市派遣職員等は除く）

現職員一覧（2025年３月現在）

【職　名】	【氏　名】
理事長	寺崎 保広
専務理事兼事務局長	大上 一光
事務局次長	南　秀雄
総務課長	弓削 朋也
総務課総務係長	ヘア 由佳
総務課	吉岡 智子
事業企画課長	平田 洋司
事業企画主幹	清水 和明
事業企画課	高橋　工
調査課長	大庭 重信
東淀川事務所長	岡村 勝行
調査課研究副主幹	別所 秀高
調査課	積山　洋
調査課	趙　哲済
調査課	小田木 富慈美
調査課	藤原 啓史
調査課保存科学室長	藤田 浩明
調査課保存科学室	山本　茜

旧職員一覧(2025年3月現在)

【総　務　課】
阿部 三千年
小堀 栄二
吉田 泰子
小山 佳余子
萩野 兼司
真砂 裕子
栂井 千壽雄
中西 敏光
日浦 典子
井上 照子
岡村 政義
喜多 博史
吉見 典恭
高東　宏
辰巳　毅
小川 公一
戸田 達夫
上葉 忠雄
小泉　巍
宮崎 靖彦
小林 敦子
大西　徹
中島 道彰
中島 佐多子
神吉 弘視
辻野 正彦
福田 由裕
杉山 幸彦
安田 秀雄
稲井 弘治
深江 恵子
白木 秀治
松浦 洋一
工藤 紘美
中川 守一
杉本 義一
西口 一男
清水 伸子
山本 忠義
木岡　清
松下　透
川北 直生
川上 恵三
竹本 史郎
山川 方子
井上 由理
鹿野 千夏子
大西 さゆみ
吉田 直紀
徳井 喜代治
中里 有紀
柏原 和子
福井 一良
水上 幸展
田畑 豊喜
中西 仁茂
北野 昌紀
山本 和世
世良 純一
井上 美砂子
羽澤 愛
北村 久美栄

【調　査　課】
木原 克司
中尾 芳治
八木 久榮
中川 信作
永島 暉臣愼
森　毅
藤田 幸夫
松尾 信裕
宮本 佐知子
植木　久
京嶋　覚
鈴木 秀典
黒田 慶一
伊藤 純
田中 清美
高井 健司
櫻井 久之
田中 秀和
鶴田 真佐子
山崎　栄
富山 直人
西畑 佳恵
内田 好昭
加茂　恵
伊藤 幸司
金村 浩一
上垣 幸徳
佐賀 和美
佐藤　隆
松本 啓子
上野 裕子
鈴木 京子
前田 勝己
平井　和
松本 百合子
清水 ひかる
中村 博司
久保 和士
大成 可乃
鳥羽 正剛
筒井　史
瀬尾 真由美
細川 富貴子
豆谷 浩之
宮本 康治
寺井　誠
辻　美紀
鳥居 信子
杉本 厚典
古市　晃
池田　研
小倉 徹也
李　陽浩
村元 健一
絹川 一徳
川村 紀子
文殊 省三
市川　創
森下 真企
田村 唯史
松浦 暢昌
長山 雅一
赤松 佳奈
岩本 正二
尾上　実
吉田 悠歩
谷崎 仁美
櫻田 小百合
田中 裕子
東郷 加奈子
渡邊 晴香
桑原 武志
白井 翔太郎
白川 靖祐
野田 優人
平山 裕之
鈴木 七奈
島貫　聡
橋本　稔
奥山　貴
岡本 さら
浅田 洋輔
和田 亮平
飯田 真理子

Ⅲ．埋蔵文化財の調査事業

1．調査事業

大阪市には難波宮跡、大坂城跡、大坂城下町跡、長原遺跡など周知された埋蔵文化財の包蔵地が数多く分布している(図２)。これらの包蔵地で土木工事等を行う場合、実施者が大阪市教育委員会と事前に協議を行い、埋蔵文化財を保護していくうえでの必要な措置を講じることとなっている。

当協会では、埋蔵文化財の残存状況を確認するための試掘調査や、各種の土木・建築工事等に伴う発掘調査を行ってきた。試掘・確認調査を含めると1979年度以降に当協会が実施した発掘調査は2,740件で、調査面積は855,281㎡であった(表１)。このほか、1979年～2002年までに当協会が行った立会調査は10,095件にのぼる。大阪市の面積が225.33㎢であるから、当協会が調査した面積は市域の約0.4％となる。これまでに調査した面積では長原遺跡や瓜破遺跡などが位置する平野区が最も広く約31万㎡で(一部東住吉区を含む)、大坂城跡や大坂城下町跡、難波宮跡を有する中央区が約25万㎡でこれに次ぐ(一部天王寺区を含む)。また、当協会で遺跡記号を付して発掘調査を行った遺跡数は、試掘・確認調査を含めて合計212遺跡にのぼる。

図１に発掘調査面積・受託金額・受託件数の推移を示す。発掘調査面積・件数は1980年代に最も多く、1990年代以降は徐々に減少し、2000年代前半を境として2000年代後半には再び増加に転じた。2010・2011年度にピークを迎えると2014・2015年度にはいったん激減し、その後再び増加に転じたのち現在に至る。発掘調査1 件当たりの調査面積は全体平均で316㎡であり、建物が密集する市街地を中心に発掘調査を実施してきた当協会の特徴的な姿を表している。なお、発掘調査受託金額は1990年代に急増しているが、これは長原東部地区区画整理事業に伴う発掘調査で計上した土留工事の経費を、受託総額に含むことによるとみられる。

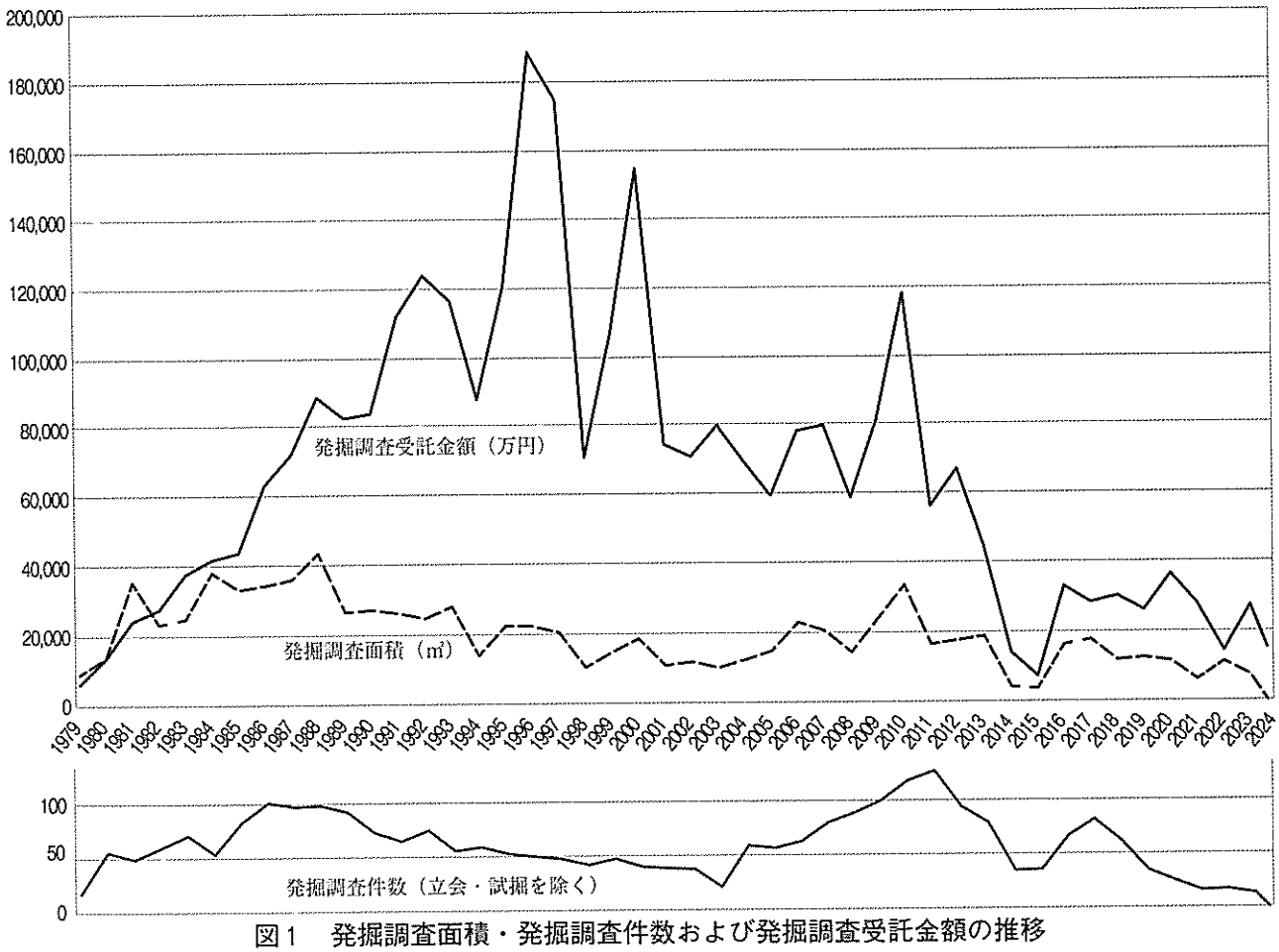
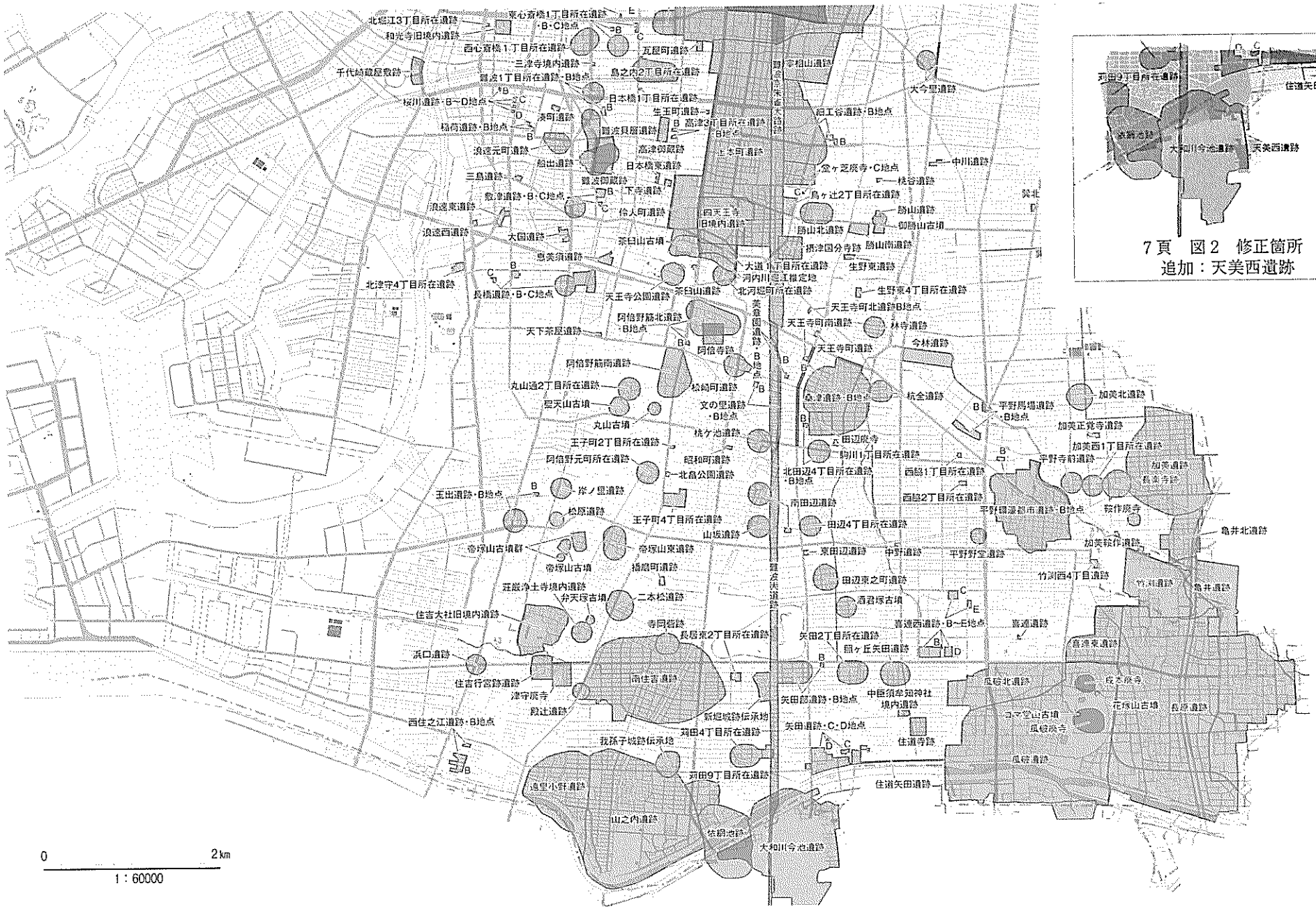
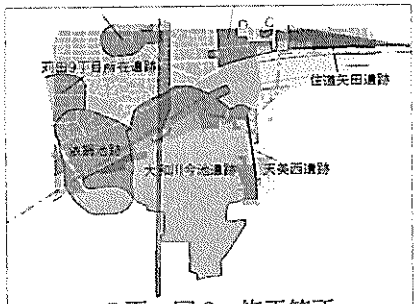


図１　発掘調査面積・発掘調査件数および発掘調査受託金額の推移

図２　大阪市の遺跡地図（大阪府地図情報システム埋蔵文化財包蔵地分布図より作成）





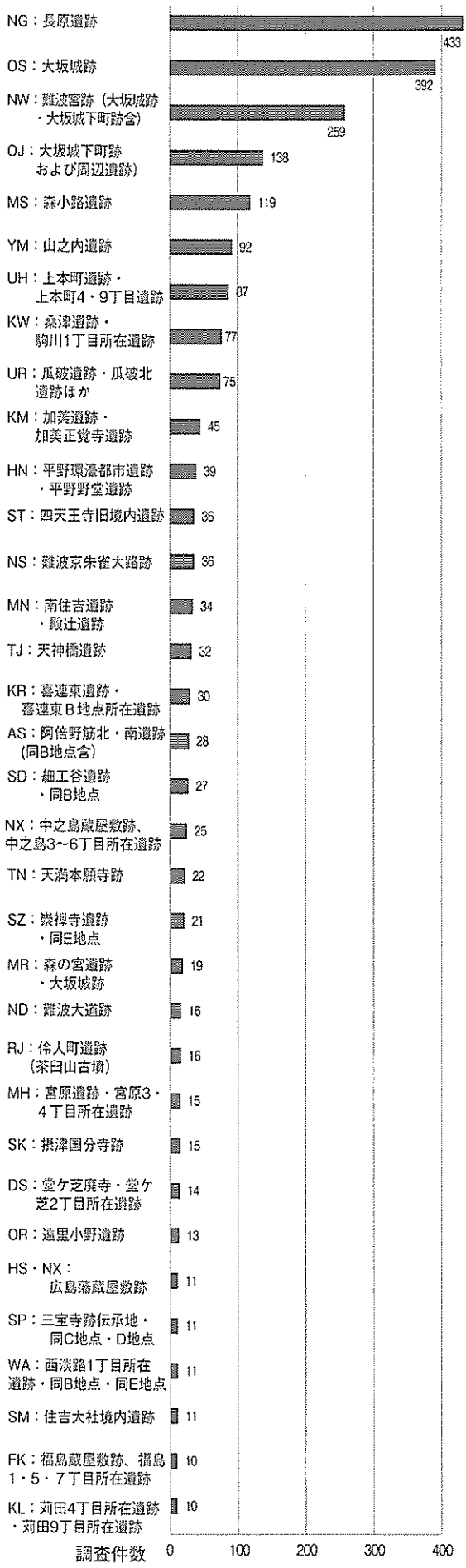
7頁　図2　修正箇所
追加：天美西遺跡

表1　発掘調査一覧

遺跡名／年度	略号	1979～1998		1999～2009		2010～2023		合計	
東淀川区									
相川遺跡・同B地点	AI					2	640	2	640
東淡路遺跡・同C地点	EA					2	572	2	572
井高野遺跡	IT					1	200	1	200
柴島遺跡B地点	KN					1	60	1	60
柴島1丁目所在遺跡						2	192	2	192
摂津国分尼寺跡	KN			4	86			4	86
東中島遺跡・東中島遺跡B地点	NJ					4	509	4	509
三宝寺跡伝承地・同C地点・E地点	SP	1	124	6	1,433	4	1,057	11	2,614
小松遺跡	KO			1	120			1	120
小松4丁目所在遺跡				1	25			1	25
崇禅寺遺跡・同E地点	SZ	5	781	2	80	14	2,213	21	3,074
大桐2丁目所在遺跡	DT			1	150			1	150
西淡路1丁目所在遺跡・同B地点・同E地点	WA			3	980	8	1,523	11	2,503
西淡路6丁目所在遺跡	WX					1	192	1	192
下新庄遺跡C地点・同D地点・同E地点	XS					3	1,001	3	1,001
豊里遺跡	TY					2	374	2	374
豊里6丁目所在遺跡				1	70			1	70
淀川区									
富光寺境内遺跡	HK					1	140	1	140
東三国遺跡	HM	2	370					2	370
東三国2丁目所在遺跡						2	29	2	29
東三国6丁目所在遺跡						2	268	2	268
加島遺跡	KZ			2	825	2	3,608	4	4,433
宮原遺跡・宮原遺跡D地点・宮原遺跡F地点	MH	1	200	6	2,087	6	863	13	3,150
宮原3丁目所在遺跡						1	600	1	600
宮原4丁目所在遺跡						1	476	1	476
西宮原遺跡・同C地点	WM			2	495	1	160	3	655
三津屋北1丁目所在遺跡	MK					1	200	1	200
三津屋北3丁目所在遺跡						1	240	1	240
三津屋城跡伝承地	MT					1	60	1	60
新高3丁目所在遺跡	NI					1	169	1	169
野中北2丁目所在遺跡	NV					1	220	1	220
田川3丁目所在遺跡	TF					1	300	1	300
十三東遺跡	JS			1	7			1	7
十八条遺跡・同B地点	JH			1	100	1	1,015	2	1,115
西中島遺跡・同C地点	WN			2	225	1	50	3	275
西中島4丁目所在遺跡						1	295	1	295
西中島7丁目所在遺跡・同B地点						2	685	2	685
西淀川区									
歌島遺跡	UJ					1	1,200	1	1,200
姫里遺跡	HI					1	210	1	210
竹島遺跡	TK					1	100	1	100
旭区									
太子橋遺跡	TH					1	100	1	100
高殿遺跡	DN					1	100	1	100
高殿5丁目所在遺跡						1	72	1	72
高殿7丁目所在遺跡						1	306	1	306
森小路遺跡	MS	93	15,302	18	938	8	1,161	119	17,401
生江3丁目所在遺跡	IQ					1	60	1	60
都島区									
網島町遺跡	AG			1	8	3	1,285	4	1,293
榎並城跡伝承地	EN					3	132	3	132
都島本通4丁目所在遺跡	MJ					2	69	2	69
中野町5丁目	MJ					1	12	1	12
友渕遺跡	TV					1	100	1	100
鶴見区									
浜2丁目所在遺跡	HP					1	500	1	500
横堤遺跡	YD					4	545	4	545
放出東2丁目	HA					1	80	1	80
諸口6丁目所在遺跡	ML			1	16			1	16
城東区									
蒲生遺跡・同B地点	GM					2	205	2	205
今福西遺跡	IH					1	405	1	405
森之宮2丁目所在遺跡	MO					1	1,519	1	1,519
関目遺跡・同B地点	SE					2	324	2	324
関目2丁目所在遺跡						1	120	1	120
関目4丁目所在遺跡						1	150	1	150
関目6丁目所在遺跡						1	36	1	36
新喜多遺跡	SQ					1	175	1	175
榎並城跡伝承地	EN			1	43	1	63	2	106
北区									
鷺洲遺跡	SU					5	445	5	445
大淀遺跡	OY			1	24			1	24
大深町遺跡・同B地点	OC					4	3,676	4	3,676
扇町遺跡	OG					1	224	1	224
曽根崎遺跡、同B地点	AZ					2	620	2	620
曽根崎1丁目所在遺跡						1	242	1	242
安曇寺跡推定地、同B地点		2	100	3	157	3	228	7	436
国分寺跡	KB			1	100			1	100
神山町遺跡	CM					1	210	1	210
中津3丁目所在遺跡、同B地点・C地点	CT					3	512	3	512
中津1丁目所在遺跡、同5丁目所在遺跡						2	459	2	459
茶屋町遺跡	CH			1	224	2	812	3	1,036
中崎町遺跡・同B地点	NZ			2	366	2	49	4	415
広島藩蔵屋敷跡	HS・NX	8	3,220	1	7,500	2	2,505	11	13,225
中之島3・4・5・6丁目所在遺跡	NX			6	10,006			6	10,006
中之島蔵屋敷跡				4	1,082	15	10,581	19	11,663
堂島蔵屋敷跡B地点・同C地点	DJ			2	657	1	20	3	677
佐賀藩蔵屋敷跡	SH	1	1,000			1	607	2	1,607
天神橋遺跡	TJ	1	40	9	892	22	1,821	32	2,753
天満本願寺跡	TN	4	1,218	8	1,110	10	705	22	3,033
天満1丁目所在遺跡	TW	1	115	1	60			2	175
天満橋1丁目所在遺跡・同C地点						3	381	3	381
西天満1丁目所在遺跡	WT			1	80			1	80
西天満3丁目所在遺跡				2	102			2	102
東天満1丁目所在遺跡	HX			1	88	1	124	2	212
東天満遺跡B地点						1	700	1	700
野崎町所在遺跡	YZ					2	1,796	2	1,796
同心町遺跡・同B地点含	DC	1	55	2	125	5	476	8	656
豊崎遺跡・同B地点含	TS	1	50	2	25	4	2,909	7	2,984
豊崎3丁目所在遺跡						1	294	1	294
本庄東遺跡(同B地点含)	HH	1	100	1	27	2	425	4	552
長柄西遺跡	NN					4	634	4	634
長柄古墳	NR					3	100	3	100
福島区									
海老江遺跡・海老江1丁目所在遺跡	EE					2	1,336	2	1,336
鷺洲5丁目所在遺跡						1	210	1	210
野田城跡伝承地	NO			2	25	5	407	7	432
福島蔵屋敷跡・同B地点・同C地点	FK					3	1,239	3	1,239
福島1丁目所在遺跡		3	1,341	2	2,950			5	4,291
福島5丁目所在遺跡						1	468	1	468
福島7丁目所在遺跡						1	150	1	150
西区									
江戸堀1丁目所在遺跡・同B地点	ED			1	56	1	40	2	96
江戸堀蔵屋敷跡						2	200	2	200
京町堀2丁目所在遺跡	KF					1	360	1	360
江之子島蔵屋敷跡	EK			1	96			1	96
新町2丁目所在遺跡	SC					1	288	1	288
和光寺旧境内遺跡	WK					1	56	1	56
北堀江3丁目所在遺跡	BH					1	100	1	100
萩藩蔵屋敷跡	HA			1	60			1	60
千代崎3丁目所在遺跡・千代崎蔵屋敷跡	CY			3	416	1	900	4	1,316
土佐堀1丁目所在遺跡・同2丁目所在遺跡・同3丁目所在遺跡	TL			1	100	2	621	3	721
朝本町1丁目所在遺跡	UT			1	150	1	90	2	240
浪速区									
下寺遺跡	RJ			3	2,009			3	2,009
恵美須遺跡	EB			1	32	1	1,400	2	1,432
船出遺跡	FD			2	700	2	2,133	4	2,833
大国遺跡	DK			2	627	3	16	5	643
敷津遺跡・同B地点・同C地点	SX			4	480	4	566	8	1,046
稲荷遺跡	IN					1	100	1	100
湊町遺跡	MC					1	400	1	400
浪速西遺跡	NA					3	77	3	77
浪速東遺跡						3	429	3	429
浪速元町遺跡・同B地点	NB/NK	1	120	2	58	3	433	5	561
難波貝層遺跡	NB					1	300	1	300
難波御蔵跡	NL					1	200	1	200
日本橋東遺跡	NP					2	611	2	611
桜川遺跡	SL					2	72	2	72
三島遺跡	SO					2	62	2	62
東成区									
東中本遺跡	GM					1	121	1	121
大今里遺跡・同B地点	OI			1	243	1	153	2	396
生野区									

生野東遺跡	IE					1	135	1	135
御勝山古墳	OK	5	768					5	768
勝山遺跡		1	150					1	150
林寺町所在遺跡	HY			1	100			1	100
勝山北遺跡・同北１丁目所在遺跡	KU			1	60	1	36	2	96
巽東３丁目所在遺跡	TA			1	80			1	80
巽北遺跡						1	112	1	112
中川遺跡・中川２丁目所在遺跡	NK			1	24	1	1,205	2	1,229
生野区・天王寺区									
細工谷遺跡、同B地点	SD	3	2,199	19	6,569	5	1,131	27	9,899
中央区									
馬喰町遺跡	BR					2	112	2	112
安曇寺跡推定地(旧)	AZ	8	1,455					8	1,455
瓦屋町遺跡	WR			1	500			1	500
高津御蔵跡	KD			1	48			1	48
上本町北遺跡、同B地点	UN			9	528			9	528
大坂城下町跡	OJ	35	10,565	44	5,674	51	6,673	130	22,912
大坂城下町跡D地点						1	126	1	126
安土町２丁目所在遺跡		2	268					2	268
平野町３丁目所在遺跡		1	65					1	65
難波宮跡	NW	129	54,402	23	5,191			152	59,593
難波宮跡・大坂城跡		42	40,868	27	9,714	37	16,874	106	67,456
大坂城下町跡・難波宮跡		1	14					1	14
森の宮遺跡	MR	9	2,964			1	64	10	3,028
森の宮遺跡・大坂城跡		4	1,695			5	841	9	2,536
大坂魚市場跡	OU	3	4,500					3	4,500
難波京朱雀大路跡・大坂城跡	NS	1	290			1	80	2	370
住友銅吹所	DB	4	5,264					4	5,264
東心斎橋１丁目所在遺跡、同C地点	HB			1	88	4	739	5	827
西心斎橋１丁目所在遺跡、同２丁目所在遺跡	WS			3	66	2	149	5	215
島之内1丁目所在遺跡・同2丁目所在遺跡	SI			1	49	7	401	8	450
三津寺境内遺跡	MU					1	49	1	49
南本町４丁目所在遺跡	MX					1	500	1	500
高津３丁目所在遺跡、同B地点	KD					2	510	2	510
今橋４丁目所在遺跡	IB			1	495			1	495
難波１丁目所在遺跡、同B地点	NB			2	130	3	187	5	317
日本橋２丁目所在遺跡	NP			1	20			1	20
日本橋１丁目所在遺跡	NP					1	111	1	111
南船場２丁目所在遺跡、同B・同C・同D・同E地点	OJ			1	1	3	455	4	456
谷町７丁目所在遺跡	TX	1	175					1	175
中央区・天王寺区・阿倍野区									
難波京朱雀大路跡	NS	9	946	13	2,212	10	1,412	32	4,570
中央区・天王寺区									
大坂城跡	OS	198	43,547	71	8,311	101	14,262	370	66,120
				10	1,753	12	1,103	22	2,856
上本町４丁目所在遺跡	UH	3	739					3	739
上本町遺跡				24	4,326	62	6,408	86	10,734
天王寺区									
上本町９丁目所在遺跡	UH	1	282					1	282
上本町南遺跡	US			8	437			8	437
難波京朱雀大路跡・真田出丸跡	NS			1	48			1	48
難波京朱雀大路跡・堂ヶ芝廃寺	NS					1	300	1	300
上之宮遺跡	UM	1	25					1	25
堂ケ芝廃寺	DS	4	858	4	292	5	730	13	1,880
堂ケ芝２丁目所在遺跡				1	250			1	250
宰相山遺跡	SS	1	1,200	2	696	2	241	5	2,137
摂津国分寺跡	SK	6	600	3	161	6	1,057	15	1,818
四天王寺旧境内遺跡	ST	20	3,913	5	258	11	1,668	36	5,839
四天王寺旧境内遺跡・茶臼山古墳	CU	1	45					1	45
茶臼山古墳	CU	3	1,226			2	258	5	1,484
天王寺公園遺跡	TO	1	750					1	750
大道１丁目所在遺跡	DA			3	111	4	419	7	530
小橋町所在遺跡	OB	1	80					1	80
生玉町遺跡	IK					1	245	1	245
北河堀町所在遺跡	KC			5	515	3	2,626	8	3,141
伶人町遺跡・茶臼山古墳	RJ			1	15			1	15
天王寺区・浪速区									
伶人町遺跡	RJ	1	36	8	275	6	606	15	917
阿倍野区									
阿倍寺跡	AB	1	160	3	806	4	98	8	1,064
阿倍野筋南遺跡、阿倍野筋遺跡	AS	6	1,924	7	311	5	271	18	2,506
阿倍野筋北遺跡、同B地点	AS			5	4,634	5	640	10	5,274

丸山古墳	MA	1	40	1	20			2	60
聖天山古墳	SY					1	248	1	248
昭和町遺跡	SW			1	40			1	40
松崎町遺跡	MZ			1	30	2	176	3	206
桃ヶ池遺跡	MG	2	427	2	394			4	821
南田辺遺跡	MQ			1	81			1	81
美章園遺跡	BI			1	70			1	70
文の里遺跡B地点	FM					1	100	1	100
播磨町遺跡	HC					1	60	1	60
天王寺町南遺跡	TG					1	80	1	80
天王寺町北遺跡B地点	TG					1	245	1	245
玉子町４丁目所在遺跡、同２丁目所在遺跡	OZ			2	115	2	1,690	4	1,805
阿倍野区・東住吉区									
難波大道跡	ND	3	197	4	908	9	1,173	16	2,278
西成区									
北津守４丁目所在遺跡	BM					6	282	6	282
玉出遺跡Ｂ地点	TD					1	80	1	80
岸ノ里遺跡	KS			1	84			1	84
長橋遺跡・長橋１丁目所在遺跡	NH			2	76	3	826	5	902
天下茶屋遺跡	TC			1	160			1	160
住之江区									
西住之江遺跡	WE			1	49			1	49
住吉区									
帝塚山古墳群	TZ	3	190	3	774	3	564	9	1,528
帝塚山東遺跡	TE			1	278	1	80	2	358
住吉行宮跡	SN	1	40	2	44	3	258	6	342
住吉大社境内遺跡	SM	5	323	3	450	3	72	11	845
荘厳浄土寺境内遺跡	SG	1	18	1	500	1	16	3	534
津守廃寺	TM					1	548	1	548
遠里小野遺跡	OR	6	12,860	7	56			13	12,916
山之内遺跡	YM	65	33,393	15	1,200	12	4,410	92	39,003
我孫子城跡伝承地	AJ			1	32			1	32
苅田４丁目所在遺跡	KL			6	2,920	2	115	8	3,035
苅田９丁目所在遺跡				1	869	1	1,050	2	1,919
南住吉遺跡	MN	16	6,537	9	2,000	7	1,255	32	9,792
殿辻遺跡				2	233			2	233
長居東２丁目所在遺跡	NE			1	650			1	650
依網池跡	YS					2	15	2	15
東住吉区									
中野遺跡	CN					1	144	1	144
杭全遺跡	KP					3	230	3	230
駒川１丁目所在遺跡	KW					1	400	1	400
桑津遺跡		52	9,619	18	1,357	6	271	76	11,247
今林遺跡	IM			1	160			1	160
山坂遺跡	YP			1	30			1	30
酒君塚古墳	SA			1	50	1	30	2	80
大和川今池遺跡	YI			3	166	2	54	5	220
矢田１丁目所在遺跡、同２丁目所在遺跡	YT・YB			1	9	2	738	3	747
矢田遺跡	YT			1	900	7	9,896	8	10,796
矢田部遺跡	YB					2	382	2	382
照ヶ丘矢田遺跡	TR					1	411	1	411
中臣須牟地神社境内遺跡	NT					1	25	1	25
住道廃寺	SJ			1	50	1	30	2	80
田辺廃寺	TB					1	70	1	70
北田辺４丁目所在遺跡B地点	KI					1	225	1	225
田辺４丁目所在遺跡	TQ			2	43			2	43
南田辺遺跡	MQ					1	132	1	132
東住吉区・松原市									
天美西遺跡	AA			1	100			1	100
平野区・東住吉区									
瓜破遺跡	UR	32	16,324	20	12,061	8	6,251	60	34,636
平野区									
瓜破南１丁目所在遺跡	UR			1	100			1	100
瓜破北遺跡(一部瓜破遺跡含む)		10	4,943	4	6,083	1	63	15	11,089
加美遺跡	KM	28	27,743	9	4,163	6	2,125	43	34,031
加美正覚寺遺跡	KM					2	790	2	790
鞍作廃寺	KT					2	144	2	144
喜連東遺跡	KR	25	22,380	4	3,410			29	25,790
喜連東Ｂ地点所在遺跡	KR			1	90			1	90
喜連西遺跡、同C地点・E地点所在遺跡	KR					8	4,926	8	4,926
亀井遺跡	KA					1	24	1	24
亀井北遺跡	KK	1	13	4	272	2	2,111	7	2,396
長原遺跡	NG	351	162,142	58	25,588	24	11,228	433	198,958
平野環濠都市遺跡	HN	25	2,263	8	169	5	404	38	2,836
平野野堂遺跡	HN					1	418	1	418
平野馬場遺跡	HV			1	150			1	150
西脇１丁目所在遺跡	WW					1	240	1	240



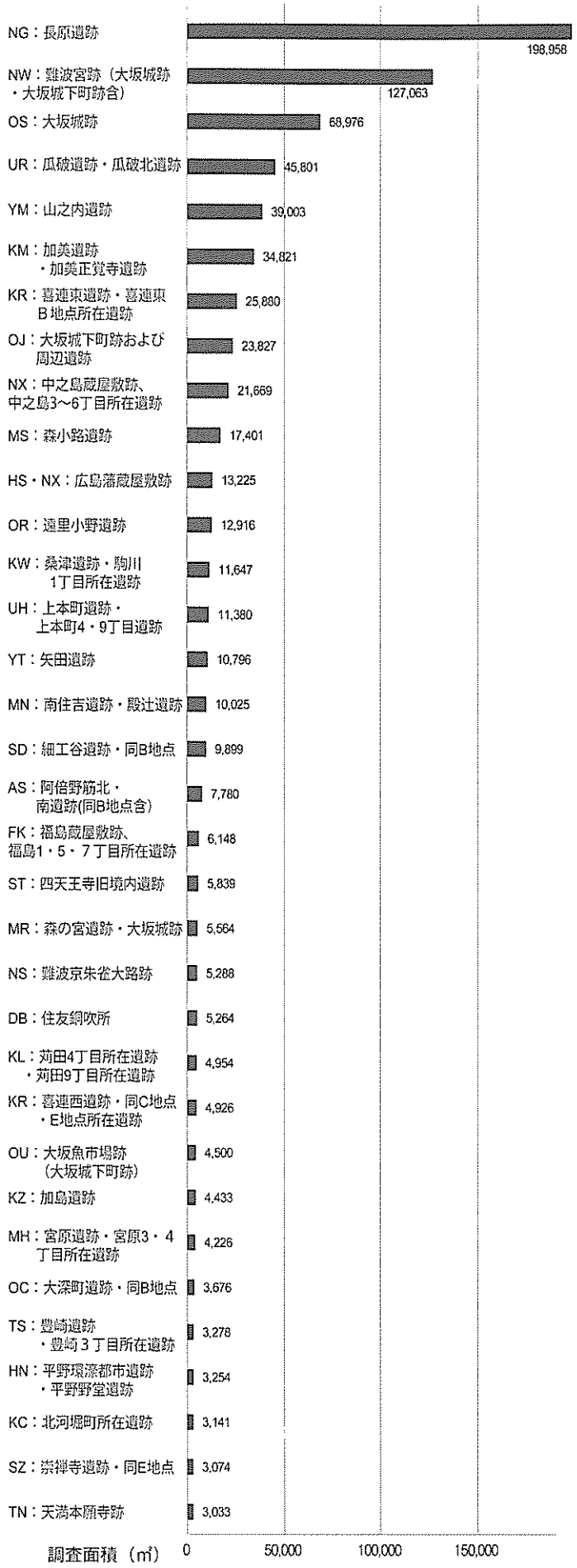


図3　調査件数10件以上・調査面積3,000㎡以上の遺跡

2．保存科学事業

当協会では、36年にわたり保存科学事業を実施してきた。出土遺物の保存処理にとどまらず、多岐にわたる事業を展開してきたので、以下にその概要を紹介する。

＜保存科学事業の歴史＞

文化財協会発足当時、保存科学担当職員は配置されていなかった。大阪市域において発掘調査で見つかった貴重な遺物を後世に伝えていくことを目的に、1988年にはじめて保存科学担当職員が配置された。具体的な業務としては、発掘現場で見つかった脆弱遺物の取り上げから保管に至るまでの科学的調査、保存処理を進めてきた。加えて、地層の堆積状況や遺構そのものを記録、保存するために剥ぎ取り転写、型取りなども行なってきた。

1990年には保存科学室が設置され、必要な設備を段階的に整備して遺物の保存処理を行なってきた。1997年にはエックス線透過画像撮影装置、2004年には木製品保存処理専用設備等を導入するなど、事業遂行能力を高めてきた。1990年代以降は、大阪市内においても発掘調査件数が増加していたため、保存処理を必要とする遺物の量も増大し、保存処理量もそれに伴って増大した。これまでの保存処理登録資料総数は２万点弱に及ぶ。また、2001年の大阪歴史博物館開館に伴い、前期難波宮遺構の現地保存や館蔵品の科学的調査、保存修復、館内の環境調査等にも携わってきた。

職員体制については、1991年以降、正職員1名、嘱託職員１名と数名の補助員という体制で業務を行なってきた。2013年には正職員が１名増員された。嘱託職員については、期限付きの契約という制約があるため入れ替わりはあったが、基本的には正職員プラス嘱託職員という体制を30年近く継続してきた。

また、大阪市域出土遺物の保存処理だけでなく、1994年から2023年までは全国各地から委託を受け、出土遺物の調査分析、保存処理等の受託事業を展開してきた。受託事業は単なる収益事業ではなく、同じ埋文調査機関として事業協力という位置づけで、各機関からの依頼に対して柔軟に対応してきた。総受託件数は421件にのぼり、この中には、我が国の歴史を紐解くうえで重要な資料が多数含まれている。

木製品の保存処理

＜出土文化財の保存処理＞

大阪市内で発掘調査を行なうと、土器をはじめ、金属製品、木製品、漆製品、繊維類、骨類など多種多様な遺物が出土する。これらをそのままにしておくと、どのような材質であっても劣化が進行し、資料としての価値を失っていく。中でも金属製品や木製品は傷むスピードが速く、出土後はすみやかに保存処理をおこなう必要がある。

出土金属製品については、そのほとんどがサビで覆われており、このサビの原因となる酸素、

水分から遠ざけ、含まれている塩分は取り除き、傷んだ部分を強化することが、保存処理の目的となる。木製品については、地中にある間に元々含んでいる木の成分は流出し、換わって過剰な水分を含んだ状態で出土する。この水分を不用意に蒸発させてしまうと、形状が変化し、資料としての価値を失うため、水分を安定した物質に置き換え、劣化の進行を止めることが、保存処理の目的となる。

保存科学事業で特筆すべきは、糖類を用いた出土木製品保存処理方法実用化について、研究・開発を推し進め、実用化に成功したことであろう。当初はポリエチレングリコール含浸処理法を採用していたが、1996年に作業時間が短く処理後の保管も容易なラクチトール含浸処理法を、奈良県立橿原考古学研究所との共同研究にて開発、実用化に成功した。その後、様々な条件の木製品に適応させるべく研究を重ね、より精度の高い処理方法として確立することができた。2008年からはトレハロースを用いた保存処理方法の開発に着手し、実用化に成功している。この方法は、自然界にも存在しているトレハロースという糖質を木製品に浸みこませ、安定した結晶を得ることで形状を保つ方法である。一般的な木製品だけでなく、トレハロースの特性を活かすことで、これまで保存処理が困難とされてきた脆弱な有機質遺物等に対しても、容易に保存処理ができるようになった。現在では国際学会でも認知されている処理方法となっており、今後も研究の進展が望まれている。

世界的な潮流としてSDGｓが叫ばれる中、同処理法はその開発目標に合致している。保存処理材料として優れた安定性を持つトレハロースという糖を用い、処理方法として自由度が高く、低コスト化、省エネルギー化を実現し、より多くの文化財を未来に伝えることに貢献してきたと言えよう。

＜研究活動・国際貢献＞

埋蔵文化財保存処理における豊富な経験と技術力、その研究成果等について、当協会では長きにわたりさまざまな場面で情報発信することに努めてきた。国内では、日本文化財科学会、文化財保存修復学会での研究発表をはじめ、トレハロース含浸処理法研究会での研究発表や実技指導を積極的に実施してきた。国外においては、東アジア文化遺産保存国際学会や世界博物館会議水浸出土文化財保存会議(ICOM-CC WOAM)での研究発表や、中国やモンゴルでの招待講演等を行なってきた。

その実績は国内外から高く評価されており、国内においては大学の非常勤講師として当協会の活動内容について若い世代への普及に努めてきた。また、海外からの要請については、特に現地での保存処理技術の移転に積極的に取り組んできた。具体的には、各国の発掘現場や保存処理施設において、現地スタッフに対して保存処理の最先端技術を伝授し、自らの手で保存処理を実施できるように支援してきた。また、当協会において実地研修を行ない、技術を移転する機会を設けてきた。特に、各国の気候条件や文化的背景に配慮した技術指導を行ない、現地に適した保存手法を確立することに力を注いだ。具体的には、これまでに協力関係を構築してきた国々には、韓国、中国、モンゴル、タイ、ロシア等がある。

（藤田　浩明）

モンゴルでの技術指導

3．発掘調査報告書の刊行

発掘調査後に出土遺物・図面・写真を整理し、調査成果をまとめた発掘調査報告書を刊行した。刊行した発掘調査報告書は設立以来のべ282冊に上る（図４・表２）。刊行数は1990年代後半に増加し、2011年度には最も多い33冊を刊行した。なかでも発刊が通刊で10冊を超えた報告書には、『長原遺跡発掘調査報告』（30冊）、『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』（20冊）、『長原遺跡東部地区発掘調査報告』（16冊）、『難波宮址の研究』（23冊）、『大坂城跡』（21冊）があり、各遺跡の全体像を把握するうえの基礎資料として大いに活用されてきた。

このほかに平野区では加美遺跡や瓜破・瓜破北遺跡、喜連西遺跡、住吉区では山之内遺跡・南住吉遺跡、天王寺区・中央区では上本町遺跡や大坂城下町跡、北区周辺では天満本願寺跡のほか、福島・中之島・広島藩などの蔵屋敷跡の報告書がシリーズ化された。これらについてはPDF化し、今後、奈良文化財研究所が運営する『全国遺跡報告総覧』に掲載する予定である。そのほか、2002年に朝鮮・日本石造物に関する報告書を刊行した。さらに、2025年には『難波宮発掘70年史』を刊行した。また、これらに加え大阪市教育委員会との共同編集で、『大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』シリーズを計58冊刊行している（表３）。

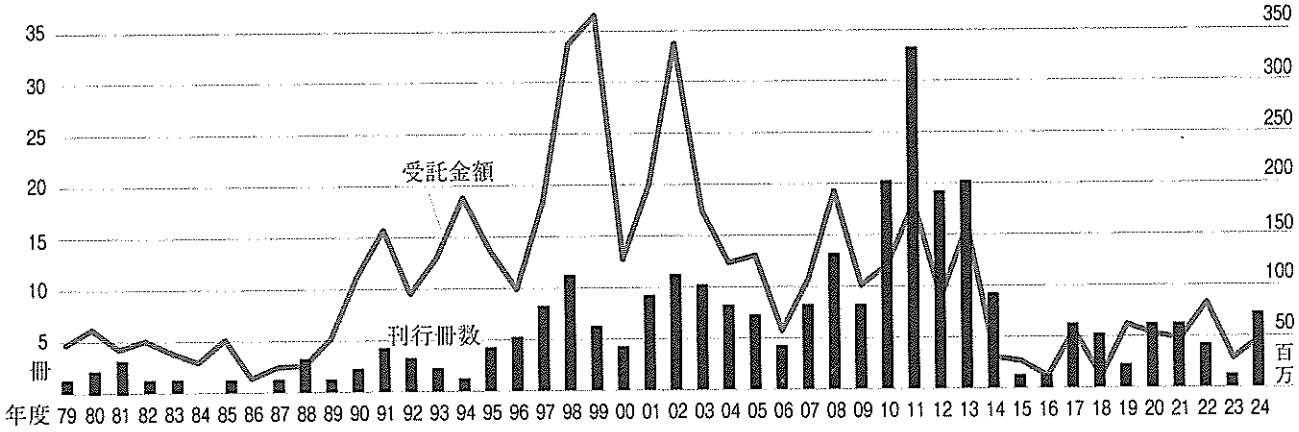


図４　報告書作成受託金額と刊行数の変化

表２－１　刊行した発掘調査報告書一覧（50音順）

書名	発行年	版・本文・図版
『阿倍野筋遺跡発掘調査報告』	1999	(A4/42/17)
『阿倍野筋北遺跡発掘調査報告』	2009	(A4/74/10)
『網島町遺跡発掘調査報告』	2012	(A4/12/3)
『生野東遺跡発掘調査報告』	2014	(A4/48/8)
『井高野遺跡発掘調査報告』	2014	(A4/10/2)
『今林遺跡発掘調査報告』	2012	(A4/14/2)
『上本町遺跡発掘調査報告』I	2010	(A4/85/34)
『上本町遺跡発掘調査報告』II	2011	(A4/30/9)
『上本町遺跡発掘調査報告』III	2012	(A4/26/7)
『上本町遺跡発掘調査報告』IV	2012	(A4/52/13)
『上本町遺跡発掘調査報告』V	2012	(A4/13/5)
『上本町遺跡発掘調査報告』VI	2018	(A4/54/11)
『上町台地の遺跡』	1991	(B5/11)
『瓜破遺跡』	1983	(B5/81/32)
『瓜破遺跡発掘調査報告』II	2002	(A4/136/27)
『瓜破遺跡発掘調査報告』III	2003	(A4/70/23)
『瓜破遺跡発掘調査報告』IV	2005	(A4/34/16)
『瓜破遺跡発掘調査報告』V	2007	(A4/76/10)
『瓜破遺跡発掘調査報告』VI	2009	(A4/74/19)
『瓜破遺跡発掘調査報告』VII	2009	(A4/102/25)
『瓜破遺跡発掘調査報告』VIII	2011	(A4/96/35)
『瓜破・瓜破北遺跡発掘調査報告』	2000	(A4/187/32)
『瓜破・住道矢田・矢田遺跡発掘調査報告』	2013	(A4/585/159)
『瓜破北遺跡』	1980	(B5/72/42)
『瓜破北遺跡』II	1981	(B5/33/22)
『瓜破北遺跡発掘調査報告』III	2006	(A4/118/23)
『瓜破北遺跡発掘調査報告』IV	2009	(A4/234/57)
『瓜破北遺跡発掘調査報告』V	2009	(A4/138/25)
『瓜破北遺跡発掘調査報告』VI	2021	(A4/34/9)
『恵美須遺跡発掘調査報告』	2012	(A4/100/33)
『大今里遺跡発掘調査報告』	2013	(A4/20/10)
『大阪市南部遺跡群発掘調査報告』	2009	(A4/170/18)
『大阪市北部遺跡群発掘調査報告』	2014	(A4/180/29)
『大阪市埋蔵文化財発掘調査報告－1996年度－』	1999	(A4/186/66)
『大阪市埋蔵文化財発掘調査報告－1997年度－』	1999	(A4/107/26)
『大阪市埋蔵文化財発掘調査報告－1998年度－』	2001	(A4/112/26)
『大阪市埋蔵文化財発掘調査報告－1999・2000年度－』	2002	(A4/196/48)
『大阪市埋蔵文化財発掘調査報告－2001・2002年度－』	2003	(A4/136/34)
『特別史跡　大坂城跡』	1985	(B5/32)
『特別史跡　大坂城跡』II	1987	(B5/24)
『大坂城跡』III	1988	(B5/255/100)
『大坂城跡』IV	1999	(A4/139/42)
『大坂城跡』V	2002	(A4/72/31)
『大坂城跡』VI	2002	(A4/260/50)
『大坂城跡』VII	2003	(A4/372/50)
『大坂城跡』VIII	2007	(A4/48)
『大坂城跡』IX	2008	(A4/24)
『大坂城跡』X	2009	(A4/60/14)
『大坂城跡』XI	2009	(A4/60/8)
『大坂城跡』XII	2011	(A4/48/8)
『大坂城跡』XIII	2012	(A4/18/6)
『大坂城跡』XIV	2012	(A4/115/36)
『大坂城跡』XV	2012	(A4/26/8)
『大坂城跡』XVI	2013	(A4/38/8)
『大坂城跡』XVII	2014	(A4/38/14)
『大坂城跡』XVIII	2018	(A4/154/32)
『大坂城跡』XIX	2018	(A4/40)
『大坂城跡』XX	2023	(A4/22/7)
『大坂城跡』XXI	2024	(A4/281/72)

『大坂城下町跡』I	1994	(B5/17)
『大坂城下町跡』II	2004	(B5/486/62)
『大坂城下町跡』III	2014	(A4/38/8)
『大深町遺跡発掘調査報告』	2018	(A4/184/28)
『大深町遺跡発掘調査報告』II	2022	(A4/268/24)
『遠里小野遺跡発掘調査報告』I	2006	(A4/92/19)
『遠里小野遺跡発掘調査報告』II	2009	(A4/41/10)
『加島遺跡発掘調査報告』	2022	(A4/45/10)
『加島１丁目所在遺跡発掘調査報告』	2011	(A4/35/13)
『加美遺跡発掘調査報告』I	2003	(A4/152/51)
『加美遺跡発掘調査報告』II	2004	(A4/192/37)
『加美遺跡発掘調査報告』III	2011	(A4/61/20)
『加美遺跡発掘調査報告』IV	2014	(A4/78/15)
『加美遺跡発掘調査報告』V	2015	(A4/203/50)
『加美遺跡発掘調査報告』VI	2015	(A4/326/114)
『加美遺跡発掘調査報告』VII	2016	(A4/179/48)
『加美遺跡発掘調査報告』VIII	2021	(A4/88/18)
『加美遺跡発掘調査報告』IX	2025	(A4/57/9)
『加美正覚寺遺跡発掘調査報告』	2012	(A4/32/22)
『亀井北遺跡発掘調査報告』	2004	(A4/116/32)
『亀井北遺跡発掘調査報告』II	2024	(A4/34/7)
『苅田４丁目所在遺跡発掘調査報告』	2004	(A4/61/19)
『苅田４丁目所在遺跡発掘調査報告』II	2008	(A4/96/28)
『苅田４丁目所在遺跡発掘調査報告』III	2011	(A4/44/13)
『苅田９丁目所在遺跡発掘調査報告』	2009	(A4/45/10)
『苅田９丁目所在遺跡発掘調査報告』II	2011	(A4/33/8)
『瓦屋町遺跡発掘調査報告』	2009	(A4/69/13)
『北河堀町所在遺跡発掘調査報告』	2013	(A4/108/17)
『北畠公園遺跡発掘調査報告』	2011	(A4/16/4)
『喜連西遺跡発掘調査報告』	2012	(A4/44/18)
『喜連西遺跡発掘調査報告』II	2012	(A4/12/3)
『喜連西遺跡発掘調査報告』III	2014	(A4/16/5)
『喜連西遺跡発掘調査報告』IV	2018	(A4/78/22)
『喜連西遺跡発掘調査報告』V	2025	(A4/58/15)
『喜連東遺跡発掘調査報告』I	2003	(A4/46/12)
『喜連東遺跡発掘調査報告』II	2011	(A4/49/23)
『久留米藩蔵屋敷跡発掘調査報告』	2022	(A4/110/22)
『桑津遺跡発掘調査報告』付　田辺東之町遺跡	1998	(B5/287/100)
『桑津遺跡B地点発掘調査報告』	2011	(A4/20/7)
『細工谷遺跡発掘調査報告』I	1999	(A4/155/59)
『細工谷遺跡発掘調査報告』II	2007	(A4/70/35)
『細工谷遺跡発掘調査報告』III	2018	(A4/86/34)
『細工谷遺跡B地点発掘調査報告』	2014	(A4/30/5)
『宰相山遺跡発掘調査報告』I	2004	(A4/65/21)
『宰相山遺跡発掘調査報告』II	2004	(A4/40/20)
『旧佐賀藩大坂蔵屋敷船入遺構調査報告』	1991	(B5/36)
『佐賀藩蔵屋敷跡発掘調査報告』	2012	(A4/191/15)
『三宝寺跡伝承地Ｄ地点発掘調査報告』	2014	(A4/18/7)
『四天王寺旧境内遺跡発掘調査報告』I	1996	(B5/136/40)
『四天王寺旧境内遺跡発掘調査報告』II	2021	(A4/10/28)
『荘厳浄土寺境内遺跡発掘調査報告』	2004	(A4/101/29)
『住友銅吹所跡発掘調査報告』	1998	(B5/608/207)
『摂津国分寺跡発掘調査報告』	2012	(A4/14/4)
『崇禅寺遺跡発掘調査報告』I	1999	(A4/43/9)
『崇禅寺遺跡発掘調査報告』II	2012	(A4/9/2)
『崇禅寺遺跡発掘調査報告』III	2014	(A4/32/8)
『崇禅寺遺跡Ｂ地点発掘調査報告』	2014	(A4/22/4)
『曽根崎遺跡発掘調査報告』	2012	(A4/25/6)
『大国遺跡発掘調査報告』	2011	(A4/41/7)
『茶屋町遺跡発掘調査報告』	2012	(A4/101/18)
『津守廃寺発掘調査報告 』	2023	(A4/88/26)
『天満本願寺跡発掘調査報告』I	1995	(B5/79/24)
『天満本願寺跡発掘調査報告』II	1997	(B5/66/30)
『天満本願寺跡発掘調査報告』III	1998	(B5/68/27)
『天満本願寺跡発掘調査報告』IV	1998	(B5/48/15)
『天満本願寺跡発掘調査報告』V	2003	(B5/44/15)
『天満本願寺跡発掘調査報告』VI	2008	(A4/29/15)
『天満本願寺跡発掘調査報告』VII	2010	(A4/24/5)
『堂島蔵屋敷跡』	1999	(A4/77/42)
『堂島蔵屋敷跡』II	2006	(A4/84/16)
『堂島蔵屋敷跡』III	2010	(A4/89/14)
『殿辻遺跡発掘調査報告書』	2009	(A4/25/4)
『豊崎遺跡発掘調査報告』	2022	(A4/54/14)

『豊里遺跡発掘調査報告』	2014	(A4/14/4)
『豊里遺跡B地点発掘調査報告』	2014	(A4/12/3)
『長居東２丁目所在遺跡発掘調査報告書』	2005	(A4/37/6)
『中川遺跡発掘調査報告』	2012	(A4/52/17)
『中崎町遺跡発掘調査報告』	2011	(A4/31/7)
『中津３丁目所在遺跡B地点発掘調査報告』	2018	(A4/19/4)
『中之島蔵屋敷跡発掘調査報告』	2012	(A4/152/42)
『中之島蔵屋敷跡発掘調査報告』II	2015	(A4/172/20)
『中之島蔵屋敷跡発掘調査報告』III	2018	(A4/92/19)
『中之島蔵屋敷跡発掘調査報告』IV	2022	(A4/94/18)
『中之島蔵屋敷跡発掘調査報告』V	2024	(A4/128/22)
『長橋遺跡発掘調査報告』	2014	(A4/26/10)
『長橋遺跡発掘調査報告』II	2018	(A4/24/6)
『長原遺跡発掘調査報告(改訂版)』	1982	(A4/224/150)
『長原遺跡発掘調査報告』II	1982	(B5/322/152)
『長原遺跡発掘調査報告』III	1983	(B5/248/115)
『長原遺跡発掘調査報告』IV	1991	(B5/226/93)
『長原遺跡発掘調査報告』V	1992	(B5/118/49)
『長原遺跡発掘調査報告』VI	1996	(B5/46/20)
『長原遺跡発掘調査報告』VII－付篇　喜連東遺跡	1999	(A4/195/49)
『長原遺跡発掘調査報告』VIII	2002	(A4/119/41)
『長原遺跡発掘調査報告』IX	2002	(A4/82/31)
『長原遺跡発掘調査報告』X	2003	(A4/42/9)
『長原遺跡発掘調査報告』XI	2004	(A4/69/20)
『長原遺跡発掘調査報告』XII	2005	(A4/328/65)
『長原遺跡発掘調査報告』XIII	2005	(A4/24/5)
『長原遺跡発掘調査報告』XIV	2006	(A4/36/15)
『長原遺跡発掘調査報告』XV	2007	(A4/296/45)
『長原遺跡発掘調査報告』XVI	2008	(A4/105/26)
『長原遺跡発掘調査報告』XVII	2008	(A4/166/39)
『長原遺跡発掘調査報告』XVIII	2009	(A4/136/27)
『長原遺跡発掘調査報告』XIX	2011	(A4/88/33)
『長原遺跡発掘調査報告』XX	2011	(A4/24/8)
『長原遺跡発掘調査報告』第21冊	2011	(A4/28/9)
『長原遺跡発掘調査報告』第22冊	2012	(A4/41/8)
『長原遺跡発掘調査報告』第23冊	2012	(A4/35/15)
『長原遺跡発掘調査報告』第24冊	2012	(A4/85/32)
『長原遺跡発掘調査報告』第25冊	2012	(A4/22/6)
『長原遺跡発掘調査報告』第26冊	2013	(A4/42/17)
『長原遺跡発掘調査報告』第27冊	2013	(A4/61/14)
『長原遺跡発掘調査報告』第28冊	2014	(A4/146/35)
『長原遺跡発掘調査報告』第29冊	2014	(A4/90/36)
『長原遺跡発掘調査報告』第30冊	2014	(A4/68/31)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』I	1989	(B5/132/38)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』II	1990	(B5/318/92)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』III	1992	(B5/204/68)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』IV	1992	(B5/166/93)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』V	1993	(B5/307/87)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』VI	1993	(B5/295/84)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』VII	1994	(B5/132/54)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』VIII	1995	(B5/422/95)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』IX	1997	(B5/216/57)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』X	1997	(B5/100/43)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XI	1997	(B5/147/55)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XII	1999	(B5/143/36)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XIII	1999	(B5/161/49)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XIV	1999	(B5/146/50)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XV	2000	(B5/176/59)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XVI	2001	(B5/210/53)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XVII	2001	(B5/129/36)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XVIII	2002	(B5/40/14)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XIX	2003	(B5/60/20)
『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XX	2003	(B5/82/23)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』I	1998	(A4/74/37)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』II	1999	(A4/135/43)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』III	2000	(A4/265/59)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』IV	2001	(A4/122/28)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』V	2002	(A4/136/36)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』VI	2003	(A4/112/33)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』VII	2004	(A4/77/39)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』VIII	2005	(A4/118/23)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』IX	2006	(A4/51/15)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』X	2007	(A4/57/31)

『長原遺跡東部地区発掘調査報告』XI	2008	(A4/72/37)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』XII	2009	(A4/40/11)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』XIII	2009	(A4/55/17)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』XIV	2011	(A4/87/23)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』XV	2012	(A4/71/29)
『長原遺跡東部地区発掘調査報告』XVI	2012	(A4/95/50)
『長栖西遺跡B地点発掘調査報告』	2013	(A4/23/8)
『難波京朱雀大路跡発掘調査報告』	2012	(A4/58/15)
『難波大道跡発掘調査報告』	2007	(A4/50/9)
『浪速西遺跡発掘調査報告』	2014	(A4/10/4)
『浪速東遺跡発掘調査報告』	2023	(A4/55/21)
『難波宮址の研究』第七『報告篇』	1981	(B5/244/219)
『難波宮址の研究』第七『論考篇』	1981	(B5/330)
『難波宮址の研究』第七『史料篇』	1981	(B5/324)
『難波宮址の研究』第八	1984	(B5/247/162)
『難波宮址の研究』第九	1992	(B5/416/355)
『難波宮址の研究』第十	1995	(B5/198/85)
『難波宮址の研究』第十一	2000	(A4/280/108)
『難波宮址の研究』第十二	2004	(A4/230/36)
『難波宮址の研究』第十三	2005	(A4/110/24)
『難波宮址の研究』第十四	2005	(A4/82/30)
『難波宮址の研究』第十五	2008	(A4/92/31)
『難波宮址の研究』第十六	2010	(A4/122/21)
『難波宮址の研究』第十七	2011	(A4/33/8)
『難波宮址の研究』第十八	2012	(A4/220/34)
『難波宮址の研究』第十九	2013	(A4/167/43)
『難波宮址の研究』第二十	2015	(A4/60/19)
『難波宮址の研究』第二十一	2018	(A4/69/19)
『難波宮址の研究』第二十二	2017	(A4/74/25)
『難波宮址の研究』第二十三	2019	(A4/71/20)
『難波宮発掘70年史』	2025	(A4/247/136)
『難波宮跡・大坂城跡発掘調査中間報告』	1989	(B5/32)
『難波宮跡・大坂城跡発掘調査中間報告』II	1990	(B5/24)
『難波宮跡研究調査年報1975～1979.6』	1981	(B5/132/72)
『難波1丁目所在遺跡B地点発掘調査報告』	2012	(A4/40/10)
『難波御蔵跡・船出遺跡発掘調査報告』I	2020	(A4/44/22)
『難波御蔵跡・船出遺跡発掘調査報告』II	2021	(A4/40/10)
『西淡路1丁目所在遺跡発掘調査報告』	2010	(A4/62/10)
『西淡路1丁目所在遺跡発掘調査報告』II	2012	(A4/41/16)
『西淡路1丁目所在遺跡発掘調査報告』III	2014	(A4/18/4)
『西宮原遺跡発掘調査報告』	2011	(A4/20/8)

『日本橋東遺跡発掘調査報告』	2013	(A4/30/16)
『野崎町所在遺跡発掘調査報告』	2020	(A4/148/38)
『東中島遺跡B地点発掘調査報告』	2013	(A4/38/18)
『東三国2丁目所在遺跡発掘調査報告』	2012	(A4/12/3)
『平野環濠都市遺跡発掘調査報告』	2012	(A4/16/6)
『平野馬場遺跡発掘調査報告』	2011	(A4/87/42)
『広島藩大坂蔵屋敷跡』	1997	(B5/24)
『広島藩大坂蔵屋敷跡』I	2003	(A4/168/44)
『広島藩大坂蔵屋敷跡』II	2004	(A4/280/55)
『広島藩大坂蔵屋敷跡』III	2020	(A4/76/25)
『福島蔵屋敷跡発掘調査報告』	2011	(A4/68/16)
『三島遺跡発掘調査報告』	2012	(A4/12/1)
『南住吉遺跡発掘調査報告－付 矢田部遺跡・帝塚山古墳－』	1998	(B5/113/29)
『南住吉遺跡発掘調査報告』II	2002	(A4/28/3)
『南住吉遺跡発掘調査報告』III	2004	(A4/61/15)
『南住吉遺跡発掘調査報告』IV	2012	(A4/14/3)
『宮原遺跡発掘調査報告』	2010	(A4/51/25)
『森小路遺跡発掘調査報告』I	2001	(A4/221/40)
『森小路遺跡発掘調査報告』II	2012	(A4/34/6)
『森小路遺跡発掘調査報告』III	2013	(A4/30/16)
『森の宮遺跡』II	1996	(B5/238/85)
『森の宮遺跡』III	2014	(A4/26/13)
『森之宮2丁目所在遺跡発掘調査報告』	2024	(A4/72/20)
『矢田遺跡発掘調査報告』	2025	(A4/102/20)
『矢田遺跡B地点発掘調査報告』	2012	(A4/20/6)
『矢田遺跡C地点発掘調査報告』	2014	(A4/44/23)
『矢田遺跡D地点発掘調査報告』	2014	(A4/24/12)
『矢田部遺跡B地点発掘調査報告』	2012	(A4/23/7)
『大和川今池遺跡発掘調査報告』	2011	(A4/14/6)
『山之内遺跡発掘調査報告』	1998	(B5/483/152)
『山之内遺跡発掘調査報告』II 付 遠里小野遺跡	1999	(A4/146/35)
『山之内遺跡発掘調査報告』III	2010	(A4/29/11)
『山之内遺跡発掘調査報告』IV	2011	(A4/18/4)
『山之内遺跡発掘調査報告』V	2013	(A4/30/14)
『山之内遺跡発掘調査報告』VI	2013	(A4/24/8)
『山之内遺跡発掘調査報告』VII	2013	(A4/33/13)
『山之内遺跡発掘調査報告』VIII	2020	(A4/24/6)
『山之内遺跡発掘調査報告』IX	2023	(A4/66/15)
『横堤遺跡発掘調査報告』	2013	(A4/74/21)

表3 『大阪市内埋蔵文化財発掘調査報告書』シリーズ一覧

書名	発行年
昭和53年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1980
昭和54年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1981
昭和55年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1982
昭和56年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1983
昭和57年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1984
昭和58年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1985
昭和59年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1986
昭和60年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1987
昭和61年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1988
昭和62年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1989
昭和63年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1990
平成元年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1991
平成2年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1991
平成3年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1992
平成4年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1993
平成5年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1995
平成6年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1996
平成7年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1997
平成8年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1998
平成9年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1999
平成10年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2000
平成11年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2001
平成12年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2002
平成13年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2003
平成14年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2004
平成15年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2004
平成16年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2005
平成17年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2006
平成18年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2008

平成19年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2008
平成20年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2010
平成21年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2011
平成22年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2012
平成23年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2013
平成24年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2014
平成25年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	2015
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2002·03·04)	2005
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2005)	2006
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2006)	2008
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2007)	2009
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2008)	2010
平成21年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2009)	2011
平成22年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2010)	2012
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2011)	2013
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2012)	2014
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2013)	2015
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2014)	2016
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2015)	2017
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2016)	2018
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2017)第1分冊	2019
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2017)第2分冊	2019
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2018)第1分冊	2020
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2018)第2分冊	2020
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2019)	2021
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2020)	2022
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2021)	2023
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2022)	2024
大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2023)	2025

4．資料の保管

発掘調査で出土した埋蔵文化財は、報告書に掲載した遺物を中心に平野区長吉出戸の大阪市埋蔵文化財収蔵倉庫に保管し、これ以外の遺物については大正区鶴浜収蔵庫（旧鶴浜小学校）および難波宮大極殿地下収蔵庫に保管している。また、木器・金属器などの特別な処置が必要な遺物については、東淀川調査事務所内の空調設備を持った特別収蔵庫において保管している。2024年度時点で、埋蔵文化財の保管コンテナ数は約５万３千箱にのぼる。実測図原図・写真などの各種調査記録は、上記の収蔵庫のほか、東淀川調査事務所で保管している。また、撮影委託した写真、重要遺跡・遺物の写真は東淀川調査事務所で一元的に保管・管理をしている。なお、2025年４月１日より、これらの資料はすべて大阪市教育委員会に移管する。

5．現地説明会などの開催

とくに重要な成果があった発掘調査については、市民を対象とした現地説明会や近隣住民を対象とした現地公開を適宜開催した（表４）。1999年度以降は58回、のべ43,546名の参加を得た。なかでも2014年３月に実施した大坂城跡の現地説明会では10,700名もの来場があった。発足以来の現地説明会・現地公開の累計は124回に上る。2016年度以降は特別史跡大坂城の発掘調査以外は報道発表が中心となった。

（小田木富慈美）

表４　1999年度以降に実施した現地説明会・現地公開一覧

開催日	遺跡名および調査次数	参加人数
1999.10.23	難波宮跡発掘調査（NW99－12次）	200
2000.11.5	難波宮跡発掘調査（NW00－11次）	3,000
2001.2.4	広島藩大坂蔵屋敷跡発掘調査（HS00－１次）	500
2001.8.5	広島藩大坂蔵屋敷跡発掘調査（HS01－１次）	100
2001.1.10－1.11	難波宮跡発掘調査（NW01－５次）	900
2002.9.14	苅田4丁目所在遺跡発掘調査（KL02－１次）	300
2002.10.20	長原遺跡発掘調査（NG02－１次）	226
2002.11.3	難波宮跡発掘調査（現場公開）（NW02－８次）	900
2002.11.30	難波宮跡発掘調査（NW02－８次）	196
2003.3.1	荘厳浄土寺境内遺跡発掘調査（SG02－１次）	40
2003.5.11	長原遺跡発掘調査（NG02－８次）	200
2003.6.29	南住吉遺跡発掘調査（MN02－６次）	60
2003.9.27	長原遺跡発掘調査（NG03－５次）	350
2004.1.23	大坂城跡発掘調査（OS03－13次）	130
2004.1.24	長原遺跡発掘調査（NG03－６次）	350
2004.3.7	難波宮跡発掘調査（NW03－８次）	120
2005.1.19	福島1丁目所在遺跡発掘調査（FK04－１・２次）	40
2005.3.13	難波宮跡発掘調査（NW04－１次）	120
2005.3.13	難波宮跡発掘調査（NW04－４次）	40
2006.2.15	特別史跡大坂城跡発掘調査（OS05－１次）	350
2006.2.24	住吉大社境内遺跡発掘調査（SM05－１次）	70
2006.5.1	遠里小野遺跡発掘調査（OR05－１次）	200
2006.8.31	苅田4丁目所在遺跡発掘調査（KL06－１次）現地公開	160
2006.9.16	細工谷遺跡発掘調査（SD06－１次）	180
2006.9.23	難波宮跡発掘調査（NW06－２次）	約300
2006.10.27	天満本願寺跡発掘調査（現地公開）（TN06－１次）	210
2006.11.18	難波宮跡発掘調査（NW05－９次）	628
2006.12.23	難波宮跡発掘調査（NW06－３次）	300
2007.3.10	特別史跡大坂城跡発掘調査（OS06－８次）	2,000
2007.3.17	長原遺跡発掘調査（NG06－３・４次）	450
2007.9.29	遠里小野遺跡発掘調査（OR07－２次）	190
2007.10.20	瓜破遺跡発掘調査（UR07－１次）	約350
2007.10.20	瓜破北遺跡発掘調査（UR07－２次）	379
2007.10.27	阿倍野筋北遺跡発掘調査（AS07－１次）	350
2007.12.8	難波宮跡発掘調査（NW07－２次）	255
2008.3.15	瓜破北遺跡発掘調査（UR07－３次）	740
2008.12.23	難波宮跡発掘調査（NW08－２次）	208
2009.3.14	難波宮跡発掘調査（NW08－３次）	202
2009.9.17	難波京朱雀大路跡（現地見学会）（NS09－１次）	約50
2010.1.10	難波宮跡発掘調査（NW09－２次）	453
2010.10.16	難波宮跡発掘調査（NW10－4次）	約600
2011.1.22	難波宮跡発掘調査（NW10－6次）	約200
2011.3.5	大坂城跡発掘調査（OS10－12次）	約1,500
2011.12.24	難波宮跡発掘調査（NW11－2次）現地公開	250
2011.12.24	大坂城跡発掘調査（OS11－10次）	約1,300
2012.3.24	大坂城跡発掘調査（OS11－16次）	100
2013.9.12-9.22	大坂城跡発掘調査（OS13－11次）	3,600
2014.1.11	難波宮跡発掘調査（NW13－12次）	630
2014.3.7-3.9	大坂城跡発掘調査（OS13－38次）	10,700
2014.5.9	中之島蔵屋敷跡発掘調査（NX13－1次）	480
2014.10.3-10.5	大坂城跡発掘調査（OS14－4次）現地公開	1,730
2015.10.31-11.1	大坂城跡発掘調査（OS15－4次）現場一般公開	1,455
2016.2.6-2.7	大坂城跡発掘調査OS15－4次）現場一般公開	3,400
2016.12.3	難波宮跡発掘調査（NW15－1次）	720
2021.2.9-2.21	大坂城跡発掘調査（OS20－1次）一般公開	585
2021.2.22-2.23	大坂城跡発掘調査（OS20－1次）募金応募者公開	474
2021.12.24	山之内遺跡発掘調査（YM21－1次）大阪市立大学内教員・学生限定	25

Ⅳ．博物館受託および指定管理事業

2001年11月に開館した大阪歴史博物館は、大阪市立博物館の新館である「大阪市立新博物館」と難波宮の遺跡博物館である「考古資料センター」双方の構想を統合したものである。当協会では1993年から考古資料センターの基本計画策定に参画をはじめたことを皮切りに、建設準備室に職員を派遣して常設展示の基本構想に参画するとともに、2001年５月に博物館の管理運営を受託して以降、協会固有職員の学芸員６名が博物館学芸業務に従事することとなった。以来、常設展示の「難波宮の時代」（10F）、「歴史を掘る」（８F）を運営するとともに、大阪市内の発掘調査資料を活用した特別展を企画、開催した。

ほかに、毎年の発掘調査成果の速報展である特集展示『新発見！なにわの考古学』展などの展覧会事業、講演会『大阪の歴史を掘る』や『金曜歴史講座』、『考古学入門講座』などの教育普及事業を恒例として開催した。また、市内小学校と連携した「難波宮体験発掘」を2013年度まで継続して行うなど、博物館事業の活性に努めた。

2006年４月に大阪市の博物館美術館の運営に指定管理者制度が導入され、当協会は大阪歴史博物館と大阪市立自然史博物館の指定管理者となった。

さらに2010年４月からは大阪市立東洋陶磁美術館の指定管理者であった財団法人大阪市美術振興協会と当協会が統合し、博物館・美術館の管理代行は、上記２館のほか大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪城天守閣の計５館となった。

（以上、『30年のあゆみ』より引用）

その結果、法人の事業内容の多くが博物館・美術館に関係することとなったため、法人名称を「財団法人 大阪市博物館協会」へ、埋蔵文化財調査事業を行う部門（文化財研究部）を法人内の附属機関「大阪文化財研究所」（所長：長山雅一）へ改めた。このような2001年からの組織改編により、埋蔵文化財の調査研究団体として出発した「大阪市文化財協会」は、大阪市の博物館群と同一法人となって広範な社会への教育普及事業を担う立場に位置づけられることとなった。

2012年には財団法人に関する法改正により、大阪府の認定を受けて「公益財団法人 大阪市博物館協会」と改称し、2015年からは大阪城天守閣を除いた４館の指定管理者として引き続き大阪市の博物館・美術館の管理代行を行った。

一方で、指定管理制度には年限があり、長・中期的な組織運営や事業計画にも影響を及ぼすとして、以前から大阪市は博物館群の地方独立行政法人化を目指して総務省と折衝を続け、2013年10月に総務大臣から地方独立行政法人施行令の改正にかかる通知が出され、地独法人の業務のうち「公共的な施設の設置及び管理」として博物館・美術館などが追加された。これによって大阪市は博物館・美術館を管理運営する団体として地方独立行政法人の設置を正式な方針と定めたが、総務省が追加した業務には埋蔵文化財調査事業は含まれなかった。そのため、2019年４月に博物館・美術館は大阪市博物館協会から分離・独立して「地方独立行政法人 大阪市博物館機構」となり、大阪文化財研究所は単独で埋蔵文化財調査事業に専従することとなった。なおかつ、地独法人への公益目的取得財産残額の贈与のため、公益財団法人から一般財団法人となって、名称を「一般財団法人 大阪市文化財協会」へと変更した。

博物館・美術館とは別の法人となったが、その後も長年にわたって各種調査研究・教育普及事業で協働した実績を活かすため、大阪市博物館機構とは協定を締結し、協会保管の文化財にかかる資料の貸借・展示、調査研究、教育普及、保存科学などの各事業で博物館・美術館との連携を深めてきた。

（清水　和明）

Ⅴ．教育普及事業

1．文化財情報『葦火』の刊行

大阪市内の文化財情報誌として1986年に創刊した『葦火』は、2025年１月に39巻216号で終刊を迎えた。掲載した遺跡数は市内100箇所以上で、時代も多岐にわたっている（表５）。特報すべき発掘調査の成果を市民に

表５　『葦火』に掲載した遺跡と掲載数

東淀川区
- 小松４丁目所在遺跡　1
- 三宝寺跡伝承地　2
- 下新庄遺跡　1
- 西淡路１丁目所在遺跡　2
- 柴島城推定地　1

淀川区
- 加島遺跡　1
- 西中島遺跡　1
- 西中島７丁目所在遺跡B地点　1
- 宮原遺跡　2
- 富光寺境内遺跡　1

旭区
- 高殿７丁目所在遺跡　2
- 森小路遺跡　9

都島区
- 網島町遺跡　1
- 榎並城跡伝承地（城東区含）　1

北区
- 大深町遺跡　9
- 佐賀藩蔵屋敷跡　7
- 高松藩蔵屋敷跡　3
- 茶屋町遺跡　2
- 天神橋遺跡　3
- 天満橋１丁目所在遺跡C地点　1
- 天満本願寺跡　10
- 堂島蔵屋敷跡C地点　1
- 同心町遺跡　2
- 豊崎遺跡　1
- 豊崎神社境内遺跡　1
- 長柄西遺跡B地点　1
- 神山町遺跡　1
- 天満１丁目所在遺跡　1
- 中崎町遺跡　1
- 鳥取藩蔵屋敷跡　4
- 中之島６丁目所在遺跡　2
- 中之島（久留米藩）蔵屋敷跡　5
- 中之島蔵屋敷跡　11
- 野崎町所在遺跡　2
- 萩藩蔵屋敷跡　1
- 広島藩蔵屋敷跡　14

福島区
- 海老江遺跡　1
- 福島１丁目所在遺跡（堂島蔵屋敷跡）　7
- 福島蔵屋敷跡B地点　1
- 野田城跡伝承地　1

中央区
- 上本町遺跡　7
- 大坂城跡　113
- 大坂城下町跡（含、安堂寺跡）　64
- 瓦屋町遺跡　3
- 住友銅吹所跡　5
- 難波宮跡　102
- 日本橋１丁目所在遺跡　2
- 馬喰町遺跡　1
- 東心斎橋１丁目所在遺跡　1
- 東心斎橋１丁目所在遺跡C地点　1
- 森の宮遺跡　13

西区
- 京町堀２丁目所在遺跡　2
- 千代崎３丁目所在遺跡　1
- 靱本町１丁目所在遺跡B地点　1

浪速区
- 恵美須遺跡　1
- 浪速東遺跡　2
- 浪速元町遺跡　3
- 船出遺跡　2

天王寺区
- 生玉町遺跡　1
- 上本町遺跡　3
- 上本町南遺跡　2
- 北河堀町１丁目所在遺跡　1
- 北河堀町所在遺跡　2
- 細工谷遺跡　9
- 宰相山遺跡　6
- 四天王寺旧境内　9
- 茶臼山古墳（遺跡）　3
- 難波京朱雀大路跡　2
- 伶人町遺跡　2

生野区
- 生野東遺跡　1
- 勝山遺跡　1
- 中川遺跡　1

西成区
- 岸ノ里遺跡　1
- 天下茶屋遺跡　1

阿倍野区
- 阿倍寺跡　3
- 阿倍野区北部　1
- 阿倍野筋遺跡　4
- 阿倍野筋北遺跡　1
- 阿倍野筋南遺跡　1
- 北畠公園遺跡　1
- 美章園遺跡　1

住吉区
- 遠里小野遺跡　7
- 苅田４丁目所在遺跡　3
- 荘厳浄土寺境内遺跡　3
- 住吉行宮跡　4
- 住吉大社旧境内遺跡　1
- 津守廃寺　1
- 帝塚山東遺跡　1
- 南住吉遺跡　4
- 山之内遺跡　8

東住吉区
- 天美西遺跡　1
- 杭全遺跡　1
- 桑津遺跡　13
- 酒君塚古墳　1
- 住道寺跡　2
- 田辺東之町遺跡　1
- 照ケ丘矢田遺跡　1
- 矢田遺跡　2
- 矢田遺跡C地点　1
- 山坂遺跡　1

平野区
- 瓜破遺跡（含、花塚山古墳）　18
- 瓜破北遺跡　6
- 加美遺跡　19
- 加美正覚寺遺跡　1
- 亀井北遺跡　3
- 喜連西遺跡　1
- 喜連東遺跡　9
- 長原遺跡　124
- 平野環濠都市遺跡　2
- 平野馬場遺跡　1
- 平野野堂遺跡　1

枚方市　枚方宿遺跡　1

福島県　1

長崎県　松浦市鷹島海底遺跡　3

韓国・中国・カンボジア　10

伝える速報誌としての役割のほか、市内の埋蔵文化財のミニ展示コーナーを紹介したり、市内各所に保存されている遺構見学のための手引きとなるような連載コラムも掲載してきた。2016年度以降は年６回の発行を年４回へと改めるとともに、誌面をオールカラーに刷新した。

２．普及図書の編集

当協会発行の刊行物以外に、協会学芸員が原稿を執筆、または執筆の上編集した普及図書がある。

・『おおさか不思議発見　遺跡が語る大阪のルーツ』（2000年：財団法人大阪市教育振興公社編集発行）
・『なにわ考古学散歩』（2007年：学生社発行、当協会編集）
・『大阪遺跡　出土品・遺構は語るなにわ発掘物語』（2008年：創元社発行、当協会編集）
・大阪日日新聞「おおさか考古学百景」2004年10月～2006年12月28日（毎木曜日）　計８部／116回
・『おおさか上町台地の歴史散歩』（2014年：なにわ活性化実行委員会発行、当協会編集）

３．ホームページ等の運用

当協会では1999年度にホームページを開設し、2015年にこれを刷新した。また、同年には公式Facebookの運用を開始した。2025年１月末までのホームページ総閲覧数は886,826件で、Facebookのフォロワー数は1,076名にのぼる。また、2012～2017年度に文化庁補助金事業で開設した「なにわ まナビ ガイド」は、上町台地を中心にスポットごとに地図と連動させながら情報を検索できるWebサイトで、のべ30,315件のアクセスがあり、文化財や遺跡見学に活用された。

４．資料の貸出・提供

当協会は発掘調査によって得られた埋蔵文化財を保管し、調査や整理作業中に作成した図面・写真資料を所有している。文化財の場合は教育委員会の了承のもと、それらに対する外部からの借用や使用申請に応じた。1998年度までの貸出・提供件数は、合計958件であった。それ以降、2009年度までは11年間で合計957件と倍近くになった。2010年度以降は、2015年度をピークに減少に転じたものの、2023年度までの13年間で1,062件の貸出・提供を行った。発足以降の件数は2,977件にのぼる。年度別の内訳は表６を参照されたい。

表６　2010年度以降の資料貸出数

年度	保管資料（実　物）出品件数	所蔵資料（写真・図）提供件数	小計（件）
2010	19	79	98
2011	24	58	82
2012	17	52	69
2013	22	74	96
2014	20	80	100
2015	33	82	115
2016	11	72	83
2017	13	57	70
2018	6	47	53
2019	5	55	60
2020	6	68	74
2021	5	52	57
2022	7	50	57
2023	1	47	48
合計	189	873	1062

５．収蔵図書と利用者数

当協会が所有する図書は、埋蔵文化財発掘調査報告書、文化財を中心とする学術関連図書、研究紀要、一般図書など、2025年１月末現在で登録数約99,500冊になる。これ以外に日本で定期刊行された文化財や歴史関係の雑誌は約13,700冊、総数約113,200冊である。これらは海外も含む全国の諸機関・個人から寄贈されたもの、および当協会で購入したもので、とくに、中国および朝鮮半島の歴史に関する書籍が多い（中国：図書約2,550冊・雑誌約600冊／朝鮮半島：図書約2,950冊・雑誌約450冊）。これらの図書は当協会の盛んな海外交流の結果、集積されてきたもので、当職員のみならず、他の研究機関および大学関係者から個人研究者まで、幅広い層の方々に利用されてきた。当協会の解散に伴い、韓国で発刊された以外の蔵書を一括して韓国嶺南文化遺産研究院に寄贈することが決まり、2024年12月に韓国大邱市にて寄贈式を行った（次頁写真）。研究院

韓国での図書寄贈式

は今後、韓国での日本の歴史研究に資するために広く公開を進める計画である。また、韓国発刊図書は、大阪歴史博物館と大阪公立大に寄贈する予定である。

6．展示

協会設立以降は、例年過去１年間の発掘調査成果を展示し、「大阪の歴史を掘る」講演会を18回にわたり実施した。この展示と講演会は、2001年11月に大阪歴史博物館が開館したことで、以後、常設展示「難波宮の時代」・「歴史を掘る」として開催場所を同館内へ移すこととなった。同館では年に１回の特集展示「新発見！なにわの考古学」展・「大阪の歴史を掘る」講演会を2024年まで継続して行った。また、大阪市埋蔵文化財収蔵展示室（長原調査事務所内：1999～2010年）および難波宮跡資料展示室（難波宮調査事務所内：～2024年）で発掘調査成果を公開し、大阪府立弥生文化博物館および近つ飛鳥博物館との共催による「発掘速報展大阪」も開催した。そのほか、大阪市内の公共施設、学校施設、民間の企業・大型集合住宅などでの常設展示「街角ミュージアム」を行った（表７）。また、市民団体による区民ギャラリーなどでの短期間展示への協力も行った。

表７　街角ミュージアム（2025年３月末時点）

区分	施設名	所在区	遺跡	内容	資料点数	見学
公共施設	旭区民センター郷土資料室	旭区	森小路遺跡	弥生時代～古墳時代の石器、土器、江谷氏寄贈の土器、瓦等	109	○
	労働会館展示コーナー（エル・おおさか）	中央区	大坂城跡	近世の陶磁器、木簡、飾り瓦等	40	○
	労働会館ピロティーホール	中央区	森の宮遺跡	縄文時代の貝、骨類、人骨、土器類～近世の金箔瓦等	89	
	生野区役所	生野区	御勝山古墳	勝山遺跡出土縄文土器と御勝山古墳出土埴輪	28	○
	阿倍野区民センター	阿倍野区	阿倍野筋遺跡・阿倍寺跡	縄文の石器、古墳時代の土器、阿倍寺出土軒瓦	60	○
	平野区画整理記念会館	東住吉区	長原・瓜破北・桑津遺跡ほか	長原、瓜破遺跡出土の旧石器～古墳時代の石器、土器等	142	○
	瓜破会館	平野区	瓜破遺跡	弥生時代～中世の石器、大型石包丁、土器、輸入陶磁器等	123	
	平野区民センター	平野区	長原・加美遺跡ほか	縄文時代～近世の陶磁器、高廻り古墳出土埴輪のレプリカ等と馬野氏寄贈資料	144	○
	大阪市立クラフトパーク	平野区	長原遺跡	縄文時代～近世まで土器を中心に床下展示	74	○
	環境局平野工場	平野区	長原遺跡・瓜破遺跡	旧石器～古墳時代の石器・土器・埴輪等	42	○
	平野区役所	平野区	平野環濠都市遺跡ほか	古代～近世の土器、陶磁器、銭貨	71	○
民間施設	太融寺　本坊ロビー	北区	安曇寺跡推定地	安曇寺跡推定地出土の土師器、瓦器、中国製磁器と土錘	26	○
	味の素株式会社	北区	中之島蔵屋敷跡	琉球産徳利、小倉産飴壺、伊万里碗	3	○
	扶桑薬品工業株式会社	中央区	大坂城下町跡	近世（豊臣時代）の茶陶	19	
	大日本住友製薬株式会社	中央区	大坂城下町跡	近世の陶磁器、海亀の甲羅・カモシカの角等の薬関係資料	25	
	平野町小池ビル	中央区	大坂城下町跡	一括埋納された近世陶磁	8	
	船場ミッドキューブ	中央区	大坂城下町跡	古墳時代の土師器と土錘、近世の陶磁器	8	○
	くすりの道修町資料館	中央区	大坂城下町跡	近世の陶磁器、漆椀、下駄、魚名の木簡、手鉤等の道修町出土遺物	28	○
	ディーグランセ上町台ハイレジデンス	中央区	難波宮跡・大坂城跡	万葉仮名文木簡のレプリカと唐津・備前焼陶器	3	
	特別養護老人ホームローズ	西成区	天下茶屋遺跡	飯蛸壺、土錘	13	
	イトーピア阿倍野松崎町常磐通りマンション	阿倍野区	阿倍寺跡	古代～中世の瓦、陶磁器、瓦質土器等	15	
学校施設	追手門学院小学校	中央区	大坂城跡	近世陶磁器、木製品、金箔瓦等	52	○
	我孫子南中学校（アビナンミュージアム）	住吉区	山之内遺跡ほか	旧石器～中世の土器、石器等とナウマンゾウの足跡	412	○
	大阪公立大学	住吉区	山之内遺跡	弥生時代～中世の土器・石器・瓦・鋳造関連遺物等	24	
	加美東小学校	平野区	加美遺跡	縄文時代の土器、弥生時代の土器、石器～近世の陶磁器、木棺等	107	
	川辺小学校	平野区	長原遺跡	古墳時代の須恵器、埴輪～中世の土器等	30	

7．講演会等の開催および各機関との連携

長原調査事務所での「文化財講演会」(1990～2001年)、「東アジアの歴史を探る」(1991～2001年：全15回)は大阪歴史博物館の開館に伴って終了した。これ以降は大阪歴史博物館と共催で講演会や連続講座を数多く開催した。なかでも「金曜歴史講座」は2002～2022年、のべ185回にわたって行われ、22,196名が参加した。設立初期より継続した「大阪の歴史を掘る講演会」(1983～2024年)は一年間の発掘調査成果を公表する場であり、2002年以降は毎年、大阪歴史博物館の特集展示「新発見！なにわの考古学」にあわせて開催された。このほか、歴博と共催で「考古学入門講座」(2002～2018年)、なにわの日講演会(2017～2024年)を行った。また、博物館群との同一法人として「８on連続講座(2012年から「ミュージアム連続講座」)」に、博物館群・大阪市立大学との連携による「博学連携講座」・「博学連携シンポジウム・講演会」等の共催事業に参加し、2019年度に大阪市博物館機構が設立されて以降も同機構および市立大学(2022年から大阪公立大学)とそれぞれ包括連携協定を締結してこれらの連携事業を継続した。

8．全国埋蔵文化財法人連絡協議会との連携

当協会では1980年の全国埋蔵文化財連絡協議会設立以来、同会主催の活動に参加してきた。2008年度からは、協議会の近畿ブロックの法人が連携し、９月～11月の３ヶ月間で、各団体が計画した展示・講演会・講座、遺跡公開などの教育普及事業を共同で広報・宣伝する催しを毎年開催した。共同のホームページやチラシを活用し、各参加団体を巡るスタンプラリーを開催することで市民の関心を高め、多くの参加者を得た。また、中核行事として「関西・考古学の日記念講演会」を実施し、2016・2024年の講演を大阪歴史博物館で開催した。

9．地域団体との連携

当協会では公共団体が開催する定期講演会や連続講座への企画や講師派遣を積極的に行った。なかでも(財)平野区画整理記念会館「住民大学講座」への講師派遣は1983年から2023年まで続いた。このほか、(財)大阪市教育振興公社「いちょう大学」(2002～2014)や大阪市立住吉人権文化センター講座(2006～2009)、ミュージアム連続講座(2012～2024)、市民交流センターすみよし北講座(2010～2015)、阿倍野区地域協働学習プログラム事業「阿倍野区歴史講座」(2005～2007)、平野区誌出版記念連続講座(2005～2012)および後続事業の平野区歴史講座(2013～2016)などの企画や講師派遣を行った。

10．学校との連携

1999年度から2013年度まで難波宮跡にて小学校を対象とした体験発掘事業を実施し、のべ134校、9,387名の参加を得た(表８)。また、2010年度には中学校の職業体験を受け入れ、２校15名の参加があった。2014・2015年度には「教員のための博物館の日」へ参加し、合計388名の参加を得た。2016年度からは大阪府立高校や市立小学校など府内学校の難波宮調査事務所展示室公開・難波宮公園解説を実施し、2023年度までに27校、616名の参加があった。

表８　難波宮跡体験発掘・展示室見学への参加校・参加者数(1999～2023年度)

体験発掘	年度	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	合計
	校数	10	7	10	15	9	13	11	11	6	6	6	9	7	6	8	134
	参加人数	636	467	688	900	620	977	952	828	449	460	409	652	537	362	450	9,387
展示室見学	年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	＊2014・2015は教員のための博物館の日ワークショップ					
	校数			6	7	5	3	1	2	2	1						
	参加人数	300	88	131	117	131	77	11	56	44	49						

11. 各種のイベントとの連携等

1995年以降、市民団体や地域連携の一環として、下記のようなイベントに共催または協力した。なかでも、大阪市内の市民ボランティア団体に呼び掛けて開始された「なにわの宮リレーウォーク」は2011～2013年度に大阪歴史博物館と共同で獲得した文化庁補助金事業の一部として始まり、その後も各地区の団体や特定非営利活動法人との共催事業として2024年まで継続した。このほか、1983年から1999年まで「中国・韓国歴史遺産の旅」の企画に協力、職員を講師として派遣した。これらの旅行は総計20回をこえ、大阪の歴史を語るうえで欠かせない東アジアの諸遺跡に市民を案内するとともに、現地の研究者との交流を深める機会となった。

・難波宮フェスティバル(1995～2001)
・中央区民まつり(1999～2024)
・生涯学習フェスティバル(1999～2004)
・関西ミュージアムメッセ(2000)
・長原ふれあい祭り(2002～2010)
・古代市(2003～2024)
・大阪自然史フェスティバル(2002・2003・2005)
・7月28日(なにわ)の日は難波宮フェスタ！(2007～2016)
・難波宮アクションペインティング(2005～2011)
・なにわの宮リレーウォーク(2011～2024)
・大阪あきない祭り(2010～2012)
・ガールスカウトボランティア清掃
・祈りの難波宮　キャンドルナイト(2011・2012)
・なにわ活性化事業報告会・パネル展示(2013)
・「新発見！平野の考古学展」展示解説・出戸収蔵庫公開(2014)
・「広岡浅子」朝ドラのヒロインゆかりの地を歩く(2015)

(小田木富慈美)

表9　2010～2023年度に実施した講演会・講座・シンポジウムおよび講師派遣等

年度	適用	項　目	件数	参加人数
2010	講座(歴博共催)	金曜歴史講座 シリーズ1	4	625
		金曜歴史講座 シリーズ2	4	368
		金曜歴史講座 シリーズ3	4	520
	講演(歴博共催)	大阪歴史博物館『考古学入門』「なにわ考古学散歩」	4	120
		大阪の歴史を掘る 2010	1	210
	シンポジウム(科研)	『シンポジウム大阪上町台地から都市を考える1　難波京復元 ―新発見！古代の橋と条坊景観―』	1	220
		『シンポジウム大阪上町台地から都市を考える2　寺社と中世都市―京都・博多・大坂―』	1	176
	講座(講師派遣・企画)	平野区誌出版記念連続講座（その7）「わがまち平野区　そのなりたちを学ぶ」	5	500
		大阪市立市民交流センターすみよし北「なにわ考古学散歩」	11	550
		大阪市教育振興公社　いちょう大学「大阪の歴史と考古学」	13	585
		阿倍野区歴史講座	1	90
		平野区画整理記念会館 住民大学講座「考古学から見た石造物の歴史」	7	560
	講座（講師派遣）	おおさかを掘る - 最新発掘調査の成果（近つ飛鳥博物館主催）	2	200
	その他	その他講演会への講師派遣（住吉人権文化センター講座など）11件	42	
2011	講座(歴博共催)	金曜歴史講座 シリーズ1	4	622
		金曜歴史講座 シリーズ2	4	451
		金曜歴史講座 シリーズ3	4	482
		大阪歴史博物館『考古学入門』「なにわ考古学散歩」	4	120
	講演（歴博共催）	大阪の歴史を掘る 2011	1	160
		文化庁補助金事業 難波宮大極殿発見50周年記念『百花斉放』	1	712
	シンポジウム(科研)	『大阪上町台地から都市を考える3　都市と自然の歴史学－弥生時代から難波宮－』関西考古学の日	1	120
2011	講座（講師派遣・企画）	平野区誌出版記念　連続講座（その7）「わがまち平野区　そのなりたちを学ぶ」	4	400
		市民交流センターすみよし北講座	6	300
		大阪市教育振興公社　いちょう大学「歴史と考古学」・「大阪の歴史と考古学」	13	585
		平野区画整理記念会館 住民大学講座「考古資料に見る暦年」	7	560
	講座（講師派遣）	近つ飛鳥博物館　おおさかを掘る - 最新発掘調査の成果 -「大阪市喜連東遺跡」	1	200
		天王寺区役所　天王寺探訪ウォーク	1	50
	講座（博物館連携）	8on 連続講座	1	80
	講座（博学連携）	大阪市立大学連携講座	1	100
	その他	その他講演会への講師派遣5件		
2012	講座(歴博共催)	金曜歴史講座 シリーズ1	4	394
		金曜歴史講座 シリーズ2	4	503
		金曜歴史講座 シリーズ3	4	311
		大阪歴史博物館『考古学入門』「なにわ考古学散歩」	4	120
	講演（歴博共催）	大阪の歴史を掘る 2012	1	156
	シンポジウム(科研)	『大阪上町台地から都市を考える5 難波宮下層遺跡と都市』科研費補助金基盤研究（A）	1	310
		『大阪上町台地から都市を考える6　近世の二大城下町 大坂と江戸－ その姿と都市構造をさぐる－』科研費補助金基盤研究（A）	1	315
	講座（講師派遣・一部企画）	平野区誌出版記念連続講座「わが町平野区　そのなりたちを学ぶ」	5	204
		市民交流センターすみよし北講座	12	600
		大阪市教育振興公社　いちょう大学「歴史と考古学」・「大阪の歴史と考古学」 コース	5	225
		平野区画整理記念会館 住民大学講座「歴史が語る災害と復興」	7	560
		大阪市教育委員会主催市民講座　『大阪の歴史再発見』	1	150
		近つ飛鳥博物館　『おおさかを掘る－最新発掘調査の成果－』	1	200

2012	講座（博物館・博学連携）	ミュージアム連続講座 2012「食」	1	72
		市立科学館・市大・博物館協会連携行事『全国同時七夕講演会』	1	150
		大阪市立大学・博学連携講座＜古墳時代の大阪＞	2	240
	講演（その他）	関西考古学の日記念講演会『聖武と桓武』	1	400
	その他	その他講演会への講師派遣	7	455
2013	講座（歴博共催）	金曜歴史講座 シリーズ１	4	512
		金曜歴史講座 シリーズ２	4	571
		金曜歴史講座 シリーズ３	4	496
		大阪歴史博物館『考古学入門』「なにわ考古学散歩」	4	120
	講演（歴博共催）	大阪の歴史を掘る 2013	1	98
	シンポジウム（科研・博物館・博学連携）	『大阪上町台地から都市を考える７ 大阪上町台地から都市を考える』科研費補助金基盤研究（A）	2	497
		『ミュージアムとコレクション－未来へ成長するたからもの－』国際博物館の日記念シンポジウム	1	71
		博学連携シンポジウム・文化庁補助金事業「難波宮と大化改新」	1	220
	講座（博物館連携）	大阪市立美術館『再発見！大阪の至宝』美術講座：「山根徳太郎先生と難波宮」	1	36
		ミュージアム連続講座 2013「旅」：「高松藩と砂糖の旅」	1	
	講演（博学連携）	博学連携連続講演会「大坂城の地中を探る」	2	447
	講座（講師派遣・一部企画）	平野区歴史講座企画・講師派遣	4	110
		市民交流センターすみよし北講座派遣	10	500
		大阪市教育振興公社　いちょう大学「歴史と考古学」・「大阪の歴史と考古学」 コース	4	160
		平野区画整理記念会館 住民大学講座「古墳時代・古代の大阪と渡来文化」	7	560
		近つ飛鳥博物館　『おおさかを掘る－最新発掘調査の成果－』	1	200
	講座（講師派遣）	別子銅山から紐解く地域交流関連事業（講演会・パネル展示）	1	3,400
	講演（その他）	関西考古学の日記念講演会『ヤマト王権と地域首長』		210
	その他	その他講演会への講師派遣	6	185
2014	講座（歴博共催）	金曜歴史講座 シリーズ１	4	474
		金曜歴史講座 シリーズ２	4	442
		金曜歴史講座 シリーズ３	4	364
		金曜歴史講座 シリーズ特別編	2	305
		大阪歴史博物館『考古学入門』「なにわ考古学散歩」	4	120
	講演（歴博共催）	大阪の歴史を掘る講演会 2014	1	64
		特集展示関連講演会「加美遺跡で見つかった弥生王墓の謎にせまる」	1	71
	シンポジウム	特別展記念シンポジウム「難波宮発掘、その可能性の中心」	1	145
		シンポジウム「大阪における古地理復元と中世史再構築の試み」（歴博・大阪府文化財センターと共催）	1	95
		包括連携協定シンポジウム「難波宮と大化改新Ⅱ」	2	300
	講座（博物館・博学連携）	石垣公開プロジェクト歴史講座「地下に眠る豊臣大坂城の石垣を探る」	1	152
		博学連携講座『上町台地 2000 年』「上町台地と周辺低地の古地理復原」	1	220
		ミュージアム連続講座 2014「大坂の陣とその時代」	1	93
2014	講座（講師派遣・企画）	平野区歴史講座①～⑤	5	156
		平野区画整理記念会館住民大学講座	7	560
		市立総合生涯学習センター考古学連続講座①『日本列島を吹き抜けた東アジアの風』	3	210
		市立総合生涯学習センター考古学連続講座②『古代都市「難波」誕生』	3	210
		市民交流センターすみよし北講座	9	450
	講座（講師派遣）	長原遺跡の最新成果報告会	1	60
		新いちょう大学考古学連続講座　講師派遣	5	54
	講演（その他）	関西考古学の日 2014 記念講演会『縄文の造形宇宙』 共催	1	80
	その他	その他講演会への講師派遣	10	603
2015	講座（歴博共催）	金曜歴史講座シリーズ１	3	465
		金曜歴史講座シリーズ２	2	292
		考古学入門講座なにわ考古学散歩「豊臣期大坂城惣構の南辺を歩く」	1	28
	講演（歴博共催）	特集展示「新発見！なにわの考古学 2015」『大阪の歴史を掘る 2015』講演会	1	134
	シンポジウム	特別展記念シンポジウム「大坂－考古学が語る近世都市－」（歴博共催）	1	170
		シンポジウム「大阪の縄文時代をさぐる－森の宮縄文人が語る環境とくらし－」パネラー（博物館連携）	1	164
		包括連携協定シンポジウム「難波宮と大化改新 III」（大阪市立大学と共催）	1	259
	講座（博学連携）	ミュージアム連続講座第１回　②「沈没船保存の最前線！」	1	41
	講座（講師派遣・企画）	平野区歴史講座　講師派遣	2	60
		平野区画整理記念会館住民大学講座①「難波宮・京を巡る近年の成果と諸問題」	7	560
		市立総合生涯学習センター考古学連続講座『地形から知る豊臣時代の都市構想』	3	240
		市民交流センターすみよし北講座　企画込	9	450
		平野区区民協働企画講座「長原古墳群が語る大阪の古代史」 講師派遣	1	51
		帝塚山学院大学生涯学習センター講座「古代なにわの都を復原する」	4	120
	講演（その他）	関西考古学の日講演会「お城の考古学」（全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック共催）	1	142
	その他	その他講演会への講師派遣	13	532
2016	講座（歴博共催）	考古学入門講座「なにわ考古学散歩」	1	26
	講演（歴博共催）	特別企画展『都市大阪の起源をさぐる　難波宮前夜の王権と都市』講演会「難波屯倉と上町台地北部における都市の形成」	1	220
		特集展示「新発見！なにわの考古学 2016」関連行事『大阪の歴史を掘る 2016』講演会	1	40
	講演（その他）	『関西考古学の日 2016』記念講演会「本願寺と考古学の世界」	1	125
	講演（科研）	科研費講演会「難波宮前の上町台地の都市化－とくに物資（木材等）の需給から」	1	50
	シンポジウム	包括連携協定企画シンポジウム「『真田丸』の歴史学」（大阪市立大学と共催）	1	210
2017	講座（博学連携）	ミュージアム連続講座「大阪市立美術館と天王寺」	1	35
	講座（講師派遣・一部企画）	平野区歴史講座　講師派遣	1	42
		平野区画整理記念会館住民大学講座「大坂の陣 400 年その 2」企画・講師派遣	7	560
		難波宮フェスタ！ 2016 講演会「難波宮と上町台地周辺の開発」（市民団体と共催）	1	75
		平野区画整理記念会館講座「大坂冬の陣と真田丸」	1	120
		「体感！上町台地の谷めぐり～幻の谷を探して～」①・②	2	140
	その他	その他講演会への講師派遣	9	500

2017	講座（歴博共催）	金曜歴史講座『朝鮮半島の考古学』	3	377
	講演（歴博共催）	7月28日は難波の日講演会	1	129
		特集展示「新発見！なにわの考古学2017」関連行事『大阪の歴史を掘る2017』講演会	1	141
	講演（広域連携）	『関西考古学の日2017』記念講演会「近世城郭と城下町の風景」（全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック共催）	1	132
	講演（科研）	科研費講演会「古墳時代における都市化の実証的比較研究」研究講演会②『日本列島における初期都市化の比較』	1	170
	講座（講師派遣・一部企画）	ミュージアム連続講座2017「海をめぐる歴史・文化・自然」	1	
		平野区画整理記念会館住民大学講座「百舌鳥・古市古墳群と東アジア」企画	7	560
		「体感！上町台地の谷めぐり 第2弾 ～あべのの谷から住吉の入江めぐり～」①・②	2	80
	その他	中華民国　宜蘭県立蘭陽博物館『現代の博物館における考古展示と教育』（街角ミュージアム活動の紹介）	1	
		大阪歴史学会「難波宮下層遺跡と上町台地北端部の開発」（現地見学会・検討会）	1	200
		その他講演会への講師派遣	5	200
2018	講座（歴博共催）	金曜歴史講座①～⑤	5	707
		考古学入門「なにわ考古学散歩」『長原古墳群と百舌鳥・古市古墳群を歩く』①～③	3	90
	講演（歴博共催）	なにわの日講演会	1	79
		特別展「はにわ大行進」記念講演会『発掘45周年 長原古墳群と長原遺跡』	1	242
		特集展示「新発見！なにわの考古学2018」関連行事『大阪の歴史を掘る2018』講演会	1	98
	シンポジウム（科研）	科研総括シンポジウム「古墳時代における都市化の実証的比較研究 - 大阪上町台地・博多湾岸・奈良盆地」	2	280
		科研講演会「ナタン・シュランガー仏国立古文書大学教授 欧州考古学の現状と課題」	1	22
	講座（博学連携）	ミュージアム連続講座2018「形を写す、姿を描く」第2回	1	51
	講座（講師派遣）	平野区画整理記念会館住民大学講座「難波の古代史」企画・講師派遣（H31.1.25・3.1）	7	560
		NPO法人大阪ユネスコ協会「大阪の始まりを知る」連続講座講師①・②	2	60
	その他	中華人民共和国・揚州博物館『楚・漢王朝の漆の保存と研究に関するシンポジウム』（保存科学成果公表）	3	240
		その他講演会への講師派遣	3	90
2019	講座（歴博共催）	金曜歴史講座①～③	3	402
	講演（歴博共催）	なにわの日講演会	1	206
		特集展示「新発見！なにわの考古学2019」関連行事『大阪の歴史を掘る2019』講演会	1	168
	研究会（科研）	「大阪中心部における5～17世紀の治水・水防遺構と都市形成過程の研究」	1	90
	シンポジウム	シンポジウム「河内鋳物師の実像に迫る」（博学連携）	1	137
	講座（博物館・博学連携）	博学連携講座「中世の渡辺と渡辺党」	1	114
		学芸員TALK & THINK	1	26
		ミュージアム連続講座2019「世界遺産と文化財」第2回	1	44
	講座（講師派遣）	平野区画整理記念会館住民大学講座「自然科学から探る歴史」企画・講師派遣	7	400
		NPO法人大阪ユネスコ協会「大阪の始まりを知る」連続講座講師①・②	2	80
		NPO法人国際文化財研究センター「なみはや歴史講座」連続講座講師①・②	2	60
		銀杏歴史研究会　梅田で学ぶ月曜講座「特別講座」	1	80

2020	講座（歴博共催）	金曜歴史講座1	1	84
	講演（歴博共催）	特集展示「新発見！なにわの考古学2020」関連行事『大阪の歴史を掘る2020』講演会	1	76
	シンポ（博学連携）	シンポジウム「徳川大坂城400年」（講師なし）	1	96
	講座（講師派遣）	ミュージアム連続講座2020「探訪　大坂城とその周辺」第2回	1	41
	講座（博物館連携）	「OSAKA MUSEUMS 学芸員TALK & THINK」 ※オンライン実施	1	69
2021	講座（歴博共催）	金曜歴史講座	3	199
	講演（歴博共催）	なにわの日講演会	1	112
		特別展「難波をうたう－万葉集と考古学－」関連行事「万葉集・古代史の中の難波」講演会	1	76
		特集展示「新発見！なにわの考古学2021」関連行事『大阪の歴史を掘る2021』講演会	1	76
	講座（博物館・博学連携）	OSAKA MUSEUMS 学芸員TALK & THINK「中之島を掘る」第8回　※オンライン実施	8	
		ミュージアム連続講座2021「天文と歴史」第3回	6	300
	講座（講師派遣）	なにわの宮リレーウォーク第11弾「古代の渡来人と百済郡（生野）のかかわり」	2	103
2022	講座（歴博共催）	金曜歴史講座	2	139
	講演（歴博共催）	なにわの日講演会2022	1	70
		特集展示「新発見！なにわの考古学2022」関連行事『大阪の歴 史を掘る2022』講演会	1	79
	講座（博学連携）	博学連携講座2022「豊臣秀吉の大坂城と城下町～最近の研究か ら～」第4回	4	180
	講演会（博学連携）	博学連携講演会「すみよし南部の10万年 - 大阪平野の形成から 大学誕生まで -」	1	98
	講座（博物館連携）	OSAKA MUSEUMS 学芸員TALK & THINK「博物館資料の健康管理」第8回　※オンライン実施	8	
	講座（講師派遣）	なにわの宮リレーウォーク2022「学芸員の話を聞いて百済郡を歩く！」	3	144
2023	講演（歴博共催）	なにわの日講演会2023	1	106
		講演会「中世大阪の沿海開発と村・城館」～最新の発掘成果と 古地形復元を基に～	1	110
		特集展示「新発見！なにわの考古学2023」関連行事『大阪の歴 史を掘る2023』講演会	1	76
		難波宮発掘開始70周年記念講演会「難波宮研究の現在地」	1	236
	講演（博学連携）	博学連携講演会「森ノ宮には何があった？」	1	230
	講座（博学連携）	博学連携講座「古代難波宮研究の最前線」第1回「古環境・古 地形復元からみた難波」	4	400
	講座（博物館・博学連携）	OSAKA MUSEUMS 学芸員TALK & THINK「新しい淀川像を探る—過去 3万年の姿、その移り変わり」第3回　※オンライン実施	14	
		ミュージアム連続講座「大阪 水辺をめぐる物語」第1-②回「なにわの遺跡の水辺もよう」	3	210
	講座（講師派遣）	大阪お城フェス2023「豊臣期大坂城の発掘調査成果」	1	50
		大阪シニア大学「発掘からみた中世大阪の沿岸開発　難波砂堆」 ※会場＋オンライン	1	35
		なにわの宮リレーウォーク第13弾「家康と大坂」講演会とまち歩き	2	210
		平野住民大学講座『平野の歴史講座』「平野郷のなりたちと繁栄～ 平野環濠都市遺跡の発掘調査から～	1	100

Ⅵ．国際交流事業

1．韓国・財団法人嶺南文化遺産研究院との国際交流事業

(財)嶺南文化遺産研究院(旧名：嶺南文化財研究院)は、慶尚北道大邱広域市に本拠を置く埋蔵文化財(韓国では文化遺産と呼称)の調査･研究機関で、韓国の財団調査組織の草分けである。設立は1994年で、その後、続々と同種の財団がつくられ、韓国では発掘調査の主体が財団法人となった。

当協会は1999年12月、嶺南文化遺産研究院(以下、「嶺南」と略)と姉妹関係を締結し、①職員の相互派遣・交流、②研究課題の共同推進、③研究会及びシンポジウムの相互支援、④情報及び学術出版物の交換、⑤その他、両機関の学術活動の支援、以上の５点を柱に交流することとした。

①職員の相互派遣では、当協会から「嶺南」に長期研修３回(１名３週間)、短期研修１回(３名１週間)、「嶺南」から当協会へ短期研修４回(各々３名)を実施した。当協会からの長期研修では韓国の発掘現場で実地に調査する貴重な経験などが、各人の調査研究の飛躍に役立った。一方、「嶺南」から当協会へ研修に来た人々は、以降、研究院の院長など、各組織の枢要なポストに就いている。研修以外でも、理事長・所長・院長の交代時や他の機会を利用して訪問を交わしてきた。

計画の②③では、2009年12月、交流10周年を記念したシンポジウム「古代嶺南と大阪の出会い」が国立大邱博物館で開催され、両機関の職員が研究発表を行った。また2016年12月には「嶺南」の第21回招請講演会、2024年12月には「嶺南」開院30周年記念シンポジウム「発掘法人時代30年 韓国考古学の懸案と課題」において大阪側が発表した。両機関の交流関係は、各人の科学研究費による研究などの窓口として恒常的に役立っており、大阪市学芸員等共同研究「韓日初期農耕の比較研究」(2002年10月)ではシンポジウム(大邱市慶北大学校)・現地検討会(密陽市)で「嶺南」の大きな支援を受けた。

嶺南文化遺産研究院との
交流10周年記念シンポジウム
(2009年12月19日)

④情報及び学術出版物の交換は、双方の発掘報告書など、日常的に行い、交流関係を通して、韓国の埋蔵文化財調査・保護の制度整備のための日本の事例調査の窓口に当協会がなったこともあった。

両機関の交流関係は永島暉臣慎・李白圭両氏の交誼に端を発しており、この25年間、日本と韓国におけるもっとも信頼できるパートナーとして友情を育み、双方が有形・無形の恩恵を受けてきた。

2025年３月の解散に当り、当協会の所蔵図書約10万冊を「嶺南」に寄贈することになり、2024年12月16日の「嶺南」開院30周年の記念式典で寄贈式が執り行われ、韓国の新聞各紙で報道された。

(南　秀雄)

嶺南文化遺産研究院開院30周年記念シンポジウム
「韓国考古学の懸案と課題」開催のファイティン!!

2．その他の国際交流事業

1979年６月設立以来、大阪市文化財協会(以下、当協会)には海外から多くの研究者、学生が訪れ、国際交流を深めた。当初10年間の記録は乏しいが、1989～2024年度に限ると、発掘現場・施設視察、調査参加、共同研究、研修、講演などのために15カ国から94名(延べ106人)が訪れた。とりわけ1990年代は頻繁であった(図５)。訪問者の内訳は多い順に、韓国33、モンゴル17、英国15、中国７、カナダ６、フランス４、米国・ロシア２で、アイスランド、アイルランド、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、スイス、オーストラリア、ペルーがそれぞれ１である(図６)。ただし、韓国からの来訪者は「日常的な」光景として、記録に及ばず、また時に十数名規模の団体で訪問される場合もあり、実態は数字を遥かに上回る。

海外から当協会への来訪者は、その目的、内容から、①韓国・中国の研究者、②欧米を中心とする研究者、③欧米の学生・大学院生、④保存科学担当者、と大きく４者に分けられる。

①の韓国･中国の研究者は､最も多い。なかでも韓国とは､朝鮮考古学を専門とする永島暉臣慎氏との繋がり、大阪府文化財センターが1990年度から2006年度まで実施した考古学国際交流研究会による招聘との連携などで、大阪はしばしば日韓の考古学研究の舞台、交流の拠点となった。この初期の日韓の交流を象徴するイベントは、1989年７月の大阪市制100周年・当協会設立10周年記念国際シンポジウム「古代船の時代－５世紀の大阪と東アジア－」である。韓国からは金 元龍先生、金 基雄先生が登壇した。設立20周年記念国際講演会『東アジア考古学最新事情　秦始皇帝から韓、倭まで』では李白圭先生が講演し、こうした日韓の間断なき交流は1999年12月、(財)嶺南文化財研究院(現：嶺南文化遺産研究院)との学術協定に結実した。

②の欧米を中心とする研究者との交流は、当協会職員の個人的な繋がり、知日考古学者からの依頼もあるが、90年代の大半は奈良国立文化

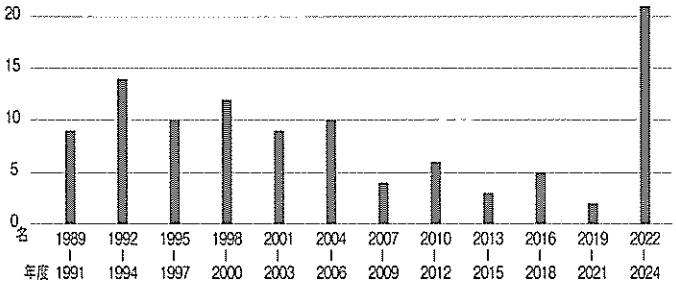


図５　海外からの来訪者受け入れ数推移
(1989～2024年度)

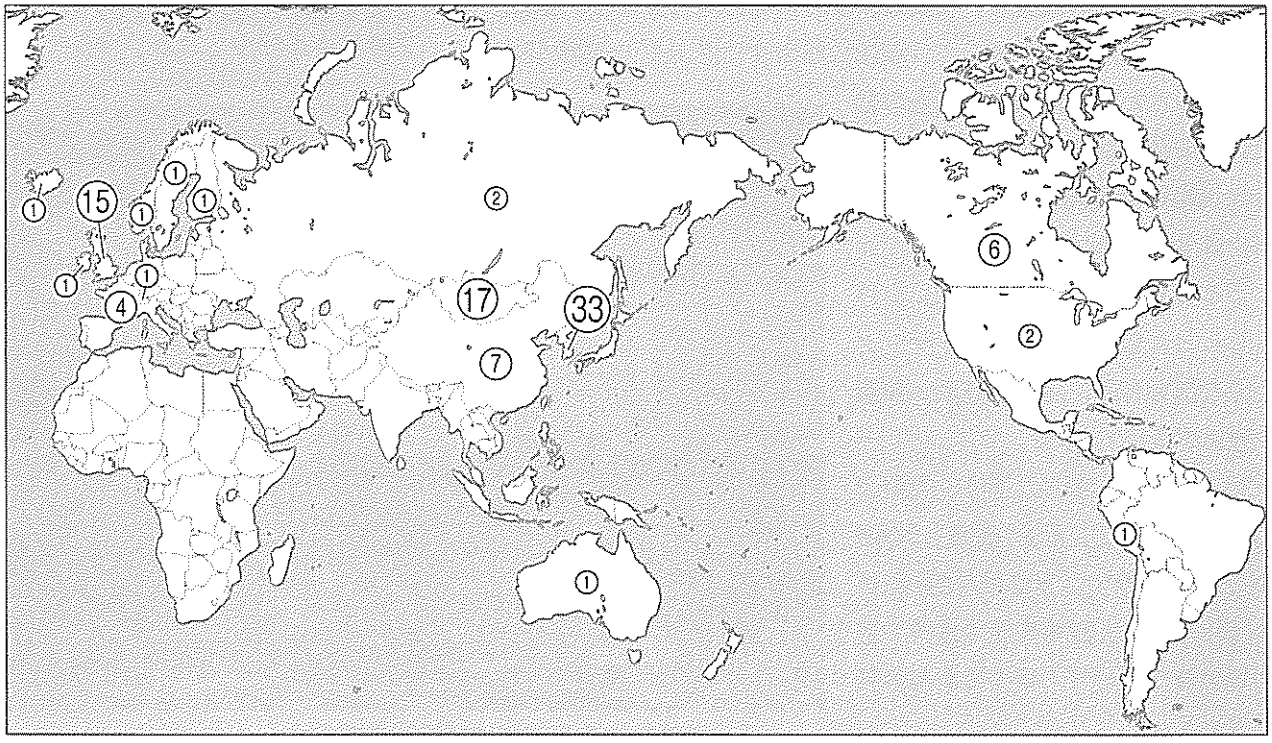


図６　協会来訪者の活動国とその人数(1989～2024年度の判明分のみ)

財研究所への招聘と関わる。同研究所の松井章氏、大阪府文化財センターの福岡澄男氏、当協会の永島氏のホットラインで、大阪の発掘調査現場、整理作業、保存科学などの視察、時に講演会の開催が計画された。

世界考古学会議中間会議大阪大会(2006年1月12～15日)

③は奈良国立文化財研究所が1996・1997年度に実施した「外国人研修」に参加したカナダ・マギル大学の学生をはじめ、十数名になる。②とは異なり、考古学・人類学を勉強中の青年であり、そのほとんどが初めての日本生活。期間は数週間から数ヶ月に及び、ホームステイをはじめ、生活全般の支援が必要な場合もあった。発掘調査にボランティア参加できる状況は、今も日本には乏しく、一部の大学を除けば、当協会は海外からの考古学者の卵が日本の発掘調査、考古学に触れることができる数少ない機関であった。

②と③の欧米研究者、学生との交流経験が大きな形となったのが、当協会が大会事務局を務め、2006年1月に大阪歴史博物館で開催された世界考古学会議中間会議大阪大会(実行委員長：金関恕)であった。世界27カ国の国・地域から367名が参加し、200本の研究報告が行われ、国内で開催された最大規模の国際考古学会となった(右上写真)。この大会の経験は10年後の2016年、80カ国から1,600名が参加したWAC－8京都大会に生かされた。なお、英語に関して、当協会が出版する報告書・紀要には、英文目次、また必要に応じて、英文要約が掲載されている。基本、出版物のすべてはネイティブ・スピーカーの校正を受けているが、遅滞なく円滑に進められたのは、これらの国際交流で培われた強力なサポート体制のおかげである。韓国語、中国語についても同様で、2001年11月開館した大阪歴史博物館の四カ国語表記にも即応し、博物館の国際化にも活かされた。

④保存科学室における国際交流は、本誌「保存科学事業」にみられるように、トレハロース含浸処理法の実用化を機に2010年代後半から、モンゴルを中心に、韓国、中国、タイ、ロシアなど急速かつ大きく拡がり、近年の当協会における最大の国際交流活動となっている。

以上のほか、割愛したが、1983年度から1995年度の「中国歴史遺産の旅」、当協会職員の海外における調査研究、招聘・招待講演など、彼の地での交流も上記に加わり、あらためて「国際性」が当協会の大きな特質の一つであったことが再確認できる。

(岡村　勝行)

※当協会を訪れた海外研究者・学生の情報、活動の詳細については、岡村勝行2024「大阪市文化財協会と国際交流」『大阪市文化財論集Ⅱ』、371－378、(一財)大阪市文化財協会、を参照されたい。

Ⅶ．研究活動

1．論集・研究紀要の発行

当協会では1994年に『大阪市文化財論集』を発行したのち、1998年に職員の研究活動の一環として『大阪市文化財協会研究紀要』を創刊し、以来毎年１冊を刊行した。このうち、第２号・第４号は在職中に夭折した鈴木秀典・久保和士氏の追悼号であり、職員以外からも多くの執筆があった。2002～2010年までは大阪歴史博物館と共同で『研究紀要』を刊行した。この間の刊行分を併せて研究紀要は通刊で25号を発行し、『大阪市文化財論集Ⅰ・Ⅱ』を含めると掲載論文数は136、研究ノート64、翻訳13、報告・紹介22、その他４となった(表10：協会職員以外の執筆を含む)。

表10　論集・研究紀要の発行状況

書名	発行年	(判型／本文頁)	論文	研究ノート	翻訳	報告	紹介	その他
『大阪市文化財論集』	1994	(B5/386)	16		1			
『大阪市文化財協会研究紀要』創刊号	1998	(A4/57)	3		1			
『大阪市文化財協会研究紀要』2号 鈴木秀典氏追悼論集	1999	(A4/446)	24		2		4	3
『大阪市文化財協会研究紀要』3号	2000	(A4/52)	3					
『大阪市文化財協会研究紀要』4号 久保和士氏追悼論集	2001	(A4/290)	11	8	3			1
大阪歴史博物館『研究紀要』第1号(5号)	2002	(A4/144)	4(1)	4(1)	2		1	
大阪歴史博物館『研究紀要』第2号(6号)	2003	(A4/212)	3(1)	6(2)	1		(2)	
大阪歴史博物館『研究紀要』第3号(7号)	2004	(A4/172)	3(1)	(3)			(3)	
大阪歴史博物館『研究紀要』第4号(8号)	2005	(A4/116)	2	5(4)	(2)		(1)	
大阪歴史博物館『研究紀要』第5号(9号)	2006	(A4/206)	6(3)	1		2	(4)	
大阪歴史博物館『研究紀要』第6号(10号)	2007	(A4/154)	4	7(3)				
大阪歴史博物館『研究紀要』第7号(11号)	2008	(A4/200)	4(2)	3(1)				
大阪歴史博物館『研究紀要』第8号(12号)	2010	(A4/218)	3(1)	6(2)		(1)	3(2)	
大阪文化財研究所『研究紀要』第13号	2011	(A4/64)	2	1				
大阪文化財研究所『研究紀要』第14号	2013	(A4/88)	3	1				
大阪文化財研究所『研究紀要』第15号	2013	(A4/77)	2	1				
大阪文化財研究所『研究紀要』第16号	2015	(A4/126)	2	3				
大阪文化財研究所『研究紀要』第17号	2016	(A4/70)	1	1		1		
大阪文化財研究所『研究紀要』第18号	2017	(A4/92)	2	1	1			
大阪文化財研究所『研究紀要』第19号	2018	(A4/77)	1	2				
大阪文化財研究所『研究紀要』第20号	2019	(A4/56)	1	2				
大阪文化財研究所『研究紀要』第21号	2020	(A4/122)	2	3				
大阪市文化財協会『研究紀要』第22号	2021	(A4/82)	3					
大阪市文化財協会『研究紀要』第23号	2022	(A4/127)	2	3				
大阪市文化財協会『研究紀要』第24号	2023	(A4/81)	2	1				
大阪市文化財協会『研究紀要』第25号	2024	(A4/106)	2	2				
『大阪市文化財論集』Ⅱ	2025	(A4/386)	25					

＊（　）内は大阪歴史博物館固有職員執筆分

2．大学・その他機関等からの講師・委員等の応嘱

当協会は各種文化財の調査研究を行うため、考古学以外に地質学・保存科学・文献史学・建築史学の専門知識を持った学芸員を配しており、大学やその他各機関から講師や専門委員のなどの委嘱があった場合、これに応じてきた。また、国内外の埋蔵文化財調査機関から発掘調査や保存処理に関する指導を求められることも多く、随時派遣を行った。

3．競争的研究資金の獲得

2001年に当協会は、文部科学省による科学研究費助成事業を申請できる研究機関に認定された。翌2002年から2009年度までに承認された研究は合計37件で、獲得した研究費は合計１億1,754万円であった。また、2010年度～2023年度までに承認された研究は分担者となったものを含めて66件、執行した研究費は１億1,446万円であった(表11)。このほか、2012年度には(公財)福武財団から助成金を獲得した。科学研究費助成事業の交付を受けた研究のうち、当協会職員が研究代表者で複数の職員が研究分担者となり実施した代表的な研究には、『東アジアにおける難波宮と古代難波の国際的性格に関する総合研究』(基盤研究B:2006～2010年度)、『大阪上町台地の総合的研究』(基盤研究A: 2009～2013年度)がある。

表11　科学研究費の獲得状況

年　度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
種　類	A・C	A・B・C	A・B・C	A・B・C	B・C	B・C	B・C	B・C	B・C	B・C	B・C	B・C	B・C	B・C
件数(分担者含)	5	5	4	3	2	3	6	6	5	4	4	6	7	6
合　計(万円)	1,339	1,222	1,348	1,030	364	360	1,000	914	810	992	386	651	697	333

4．共同研究員制度

当協会は2019年度に再び名称を大阪市文化財協会に戻して以降、中期計画にかかる取り組みとして、共同研究員制度を設けた。2021年度以降、発掘調査現場や報告書作成で必要となった考古学・古代史・建築史・動物考古学・形質人類学・植物学・地質(堆積)学・測量学の研究者と連携して研究を進め、研究結果を報告書に反映した。登録数は、2021年度が６分野９名、2022年度は８分野13名、2023年度は７分野12名であった。

(小田木富慈美)

大阪市文化財協会46年のあゆみ

ISBN　978－4－86305－171－3
2025年３月31日　発行©

編集・発行　一般財団法人 大阪市文化財協会
〒540－0006　大阪市中央区法円坂１－６－41
（TEL.06－6943－6833　FAX.06－6920－2272）
https://www.occpa.or.jp/